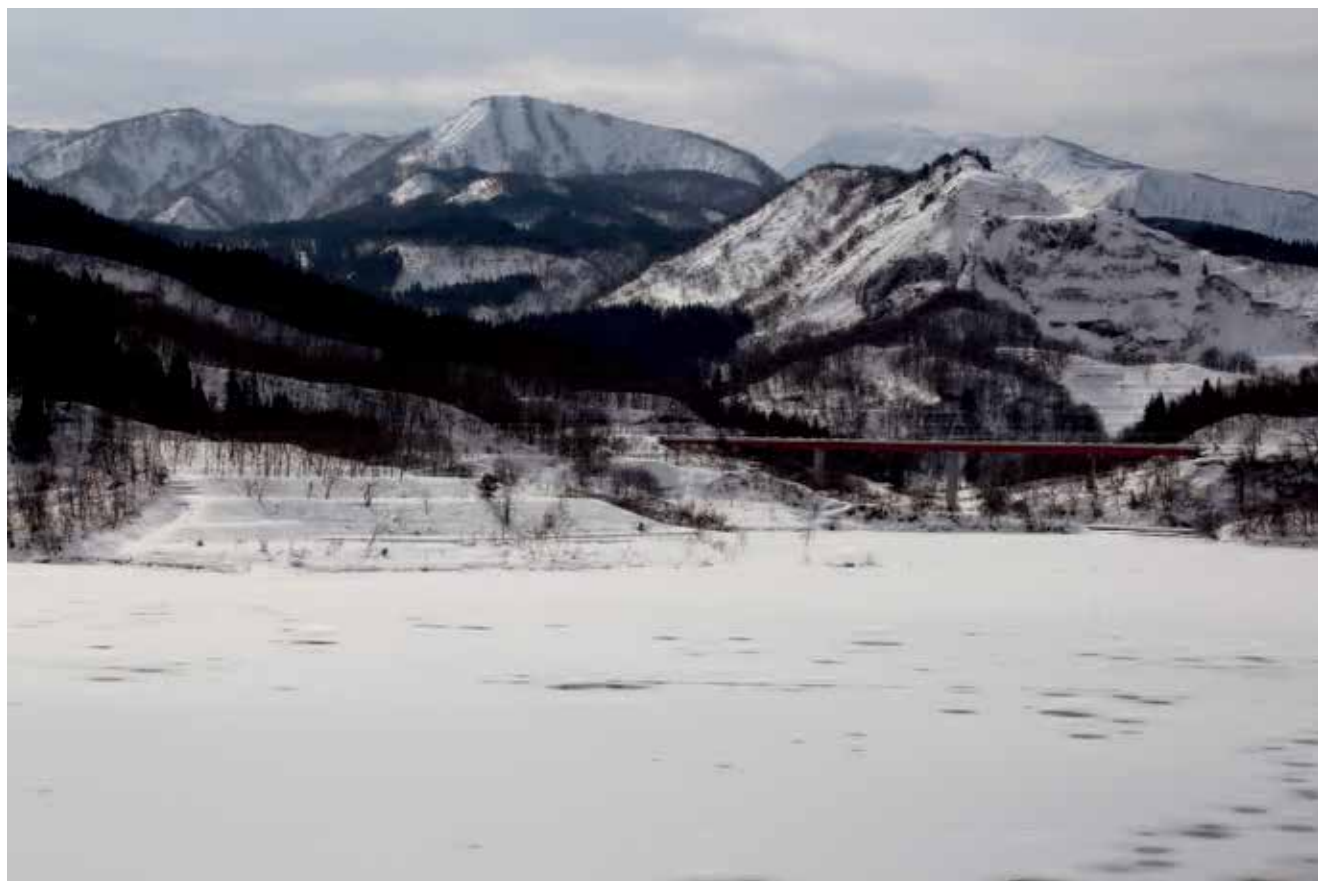


雪の音で

Vol.129

平成29年2月15日発行



CONTENTS

目次

2017 February Vol.129

巻頭言	一億総活躍社会と社会インフラ	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部長 寺本邦一	1
特集	梯川下流部堤防完成記念事業 梯川分水路通水記念式	国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所	2
随想	新潟から世界へ発信 日本文化で国際交流!	間嶋めぐ	6
寄稿文	写真から読み解く萬代橋	新潟市歴史博物館 学芸課 田嶋悠佑	8
ちよつと気になる コーナー	2017年桜前線と日本三大桜	中越トラベル(朝日交通(株)観光部) 取締役支配人 山崎康裕	12
お知らせ	北陸地方整備局との意見交換会の概要	対外活動部会	14
お知らせ	新潟県との意見交換会の概要	新潟地域委員会	17
お知らせ	新潟市との意見交換会の概要	新潟地域委員会	19
お知らせ	県立新潟工業高等学校「出前講座」	技術部会 道路委員会	22
お知らせ	平成28年度「小学生のための出前講座」 新潟市立結小学校	広報部会	26
お知らせ	平成28年度 北陸支部防災訓練の結果 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部	災害対策部会・総括部会	28
お知らせ	平成28年度 道路トンネル見学会	技術部会 道路委員会・トンネル委員会	32
お知らせ	平成28年度 まちづくりセミナー研修報告 ～宇都宮市の都市計画～	都市計画委員会	34
お知らせ	橋梁技術講演会	技術部会 橋梁委員会	36
お知らせ	平成28年度 橋梁現場見学会2 一般国道8号 歌高架橋上部工事	技術部会 橋梁委員会	40
お知らせ	白山地域における環境保全と災害対策に関する 技術講演会 ～エコパークと崩壊地対策～	技術部会 河川及び砂防委員会・建設環境委員会	42
	北陸支部活動報告	事務局	44
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	50
	編集後記	須藤勝彦	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙]

タイトル 氷に閉ざされた笠堀ダム
撮影地 新潟県三条市笠堀
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

一億総活躍社会と社会インフラ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部長

寺 本 邦 一



1. 一億総活躍社会

我が国の経済成長の隘路の根本にある少子高齢化の問題に真正面から取り組み経済成長を加速する「ニッポン一億総活躍プラン」が昨年6月に閣議決定されました。

日本経済に更なる好循環を形成するため、広い意味での経済対策として子育て支援や社会保障の基盤を強化し、経済を強くする新たな経済社会システムづくりに挑戦していくことになります。

一億総活躍社会は、成長戦略として誰もが活躍できる、いわば全員参加型の社会により労働参加率向上やイノベーションの創出が図られ希望を生み出す強い経済を加速することが期待されています。

2. 活力ある地方創生と社会インフラ

地方創生は、一億総活躍社会を実現する上で最も緊急度の高い取り組みの一つです。

「まち・ひと・しごと創生基本方針2016」に基づき、人口減少に歯止めのかからない地方移住・定着の実現、地域の実情に応じた働き方改革、連携中枢都市圏の形成を通じ、地域特性に即した課題解決を進め、人口減少と地域経済の縮小を克服します。

そのため、地域において特性を生かした付加価値の高い産業を創業・形成することにより、雇用機会を創出します。

なかでも観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱となっており、世界の需要を取り込むことによって、国内外からの人口交流の拡大によって地域の活力を維持し地域社会を発展させる重要な分野であります。

そこで、競争力の高い魅力ある観光先進地域の形成とそれらを周遊する広域交通ネットワークの形成が急がれます。

社会資本整備に当たっては、既存施設の最大限の活用を図りつつ、成長力を強化する分野に重点化し、ストック効果が最大限発揮されるよう戦略的な取り組みを安定的・持続的に進める必要があります。

また、一億総活躍のためには、だれでも、どこでも、自由に使いやすいユニバーサルデザインのバリアフリー化を重視した取り組みが大切です。

そして、民間投資を誘発し、地域力向上を図る地方創生に向けた社会基盤の強化が欠かせません。

成長力強化に向けた地域マネジメントの知の結集を図り地方創生と社会資本整備の両輪を迅速かつ効率的に行うことが未来への投資を実現する力強い経済対策になります。

建設コンサルタントは、幅広い知見を生かして地域マネジメントの主體的役割を担うことが期待されています。

梯川下流部堤防完成記念事業 梯川分水路通水記念式

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

梯川は、昭和46年に国による河川改修に着手し、川幅の拡幅工事（引堤）を進めてきました。梯川改修の一部である梯川分水路は、平成8年の計画決定から20年を経て、平成28年11月20日（日）、通水という大きな節目を迎えたものです。

この通水を記念するとともに、治水事業の役割や効果を地域の皆様にお伝えし、防災意識の高揚を図ることを目的として、通水式を挙行了しましたので、ここに報告いたします（図1）。



図1 梯川分水路の位置図



写真1 梯川流域の地形特性

一方、氾濫域の下流部には、小松市や能美市の市街地が広がり、繊維・機械等の産業が集積しています。沿川には、小松空港や北陸自動車道、国道8号、JR北陸本線等、関東や関西と北陸を結ぶ基幹交通のネットワークが形成されてきました。また、縄文・弥生時代の遺跡、歌舞伎の勧進帳で知られる安宅（あたか）の関、加賀藩三代藩主前田利常により創建された小松天満宮や小松城等の史跡・文化財、九谷焼等の伝統産業があり、これらは流域の社会・経済・文化の基盤をなしています。

1. 流域の概要

梯（かけはし）川は、その源を石川県小松市の鈴ヶ（すずが）岳に発し、山間部を北流して、郷谷（ごうたに）川等を合わせた後、流れを西に転じて平野部を流下します。その後、手取川と梯川によって形成された扇状地を西に蛇行して、鍋谷（なべたに）川や八丁（はっちょう）川の支川を合わせつつ、小松市街地を貫流し、河口付近で木場（きば）潟より流れ出る前川を合わせて、日本海へ注ぐ、流路延長42km、流域面積271km²の一級河川です。

梯川は、流域面積が小さく、洪水の流出時間が早いことから、避難や水防活動の時間確保が困難であるという洪水特性を有しています。流域は、山間部と海岸砂丘に囲まれた低平地を抱え、ひとたび氾濫が発生すると、浸水域は広範かつ浸水深も大きく、外水・内水氾濫が複合的に発生して、浸水継続時間も長期化しやすい地形となっています（写真1）。

2. 梯川下流部における堤防整備の経緯

梯川では、昭和34年に小松市内で本川堤防の決壊による氾濫が生じました。その後、昭和43年に支川の八丁川、鍋谷川の堤防決壊による洪水被害が発生したことから、昭和46年に国は梯川を一級河川に指定し、「梯川工事実施基本計画」を決定して河川改修に着手したものです。

しかし、家屋連担部である市街地において、小松天満宮や一般家屋等の移転を伴う川幅の拡幅計画であり、上流にダムを建設すれば抜本改修は成り立つと認識していた住民が多かったことから、当時は、拡幅計画に対する地域の理解が得られませんでした。

このため、国は昭和54年には人家が少ないJR梯川橋梁から八丁川合流点までの区間において拡幅工事を完了させる一方、県は昭和53年に赤瀬ダムを完成させる等、低い治水安全度を踏まえて着実に治水事業を進めてきました。

さらに、市街地における活発な住民説明会等による努力の結果、拡幅計画への理解が徐々に得られ、住民の多くが治水対策に期待を寄せる方向へ動きはじめたことから、川幅の拡幅工事を進めてきたところ です。

その後、平成8年に小松天満宮を現位置に保存するために分水路方式として改修計画を変更しており、平成11年には梯川下流部（前川合流点から白江大橋）が都市計画決定され、道路整備や家屋移転（193戸）等のまちづくりと一体となった整備が促進されてきました。

梯川分水路の完成により、梯川下流部における一連の堤防整備は完了することになります（写真2、写真3）。

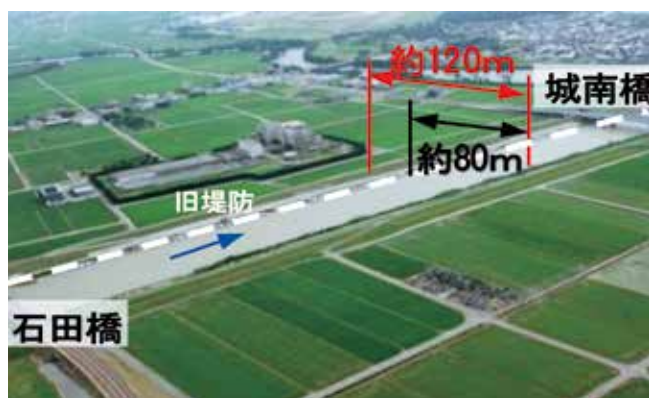


写真2 城南橋～石田橋の堤防整備（H10）



写真3 小松新橋～白江大橋の堤防整備（H24）

3. 梯川下流部における堤防整備の効果

梯川では、平成10年、16年、18年、25年と堤防高に迫る洪水が頻発しています。特に、平成25年7月の梅雨前線による出水では、埴田（はねだ）水位観測所において計画高水位まであと1cmに迫る観測史上最高水位を記録し、沿川の地域には避難指示や避難勧告が発令される等、危険な状況となりました。

この出水では、川幅の拡幅工事により水位低減が図られた結果、川から水があふれ出して堤防決壊を招く「越水破堤」を未然に防ぐことができたものと考えられます。

小松新橋から白江大橋においては、川幅を80mから120mと1.5倍に広げたため、約70cm（推定）の水位低減効果を発揮しています（図2）。

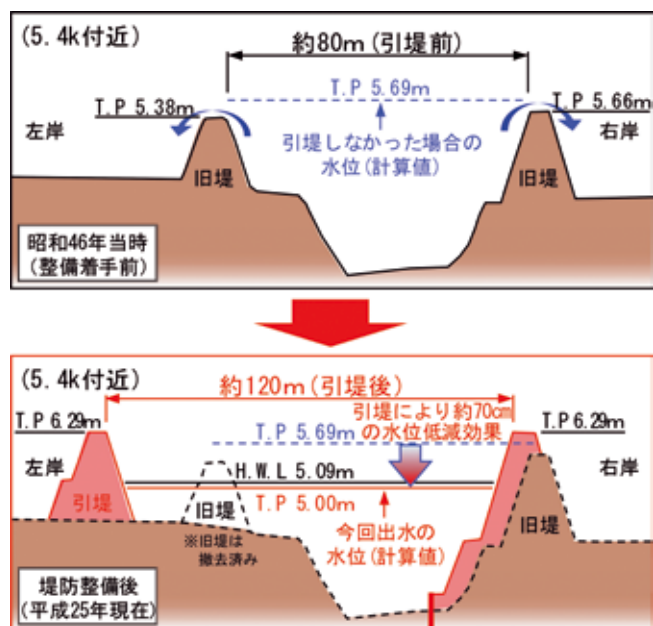


図2 川幅の拡幅工事の効果（H25 出水）

4. 梯川分水路改修の必要性

（1）小松天満宮の由緒

小松天満宮は、前田利常が小松城に隠居後、祖先神として崇拝する菅原道真を祭る北野天満宮を模して、明暦3年（1657年）に創建されました。江戸時代初期の優れた建築様式を今に伝えるところから、昭和36年6月に国の重要文化財に指定されています（写真4）。



写真4 小松天満宮本殿

また、小松天満宮は、卯辰（うたつ）山、金沢城本丸、小松城によって、一本の線によって結ばれる位置にあり、「小松城の鬼門にあたる艮（うしろ）の方向、すなわち東北にあたる梯川のほとりを選び、小松城の守りを堅固にすることを願ったもの」といわれています。

(2) 梯川分水路改修の必要性

梯川は、低い治水安全度と頻発する水害を踏まえて、早期の河川改修が課題でした。特に小松天満宮付近は、従来の川幅が約80mしかなく、洪水の流下能力が不足して危険な状態にあり、川幅を100m程度に広げて洪水を流れやすくする必要がありました。

一方、小松天満宮は、小松市の成り立ちに関わる歴史的・文化的なシンボルであり、国指定の重要文化財であることから、現位置での保存が求められました。

このため、治水対策と文化財保護の両立の観点から、模型実験や平面2次元流況解析による検討や技術検討委員会による審議を踏まえて、川の流れを分派させて、小松天満宮境内を中の島とする分水路方式が採用されたものです(写真5)。



写真5 模型実験と技術検討委員会

本川の堤防法線や分派形状については、一般家屋の移転を最小限とするほか、右岸の正光(しょうこう)寺、左岸の葭島(よしじま)神社の移転を避ける等の社会的合理性や、分水路により確実に分派可能か、河床洗掘・堆積の影響は生じないか等の技術的合理性を踏まえて決定されました(図3)。

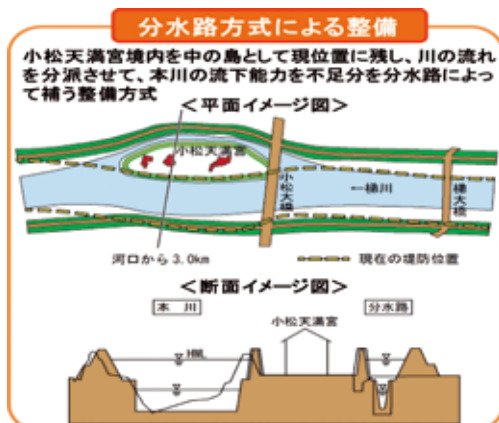


図3 分水路方式のイメージ図

今後は、平常時及び洪水時の適正分派と河床変動等を把握するため、モニタリング調査を実施していく予定です。

(3) 治水対策と一体的な歴史的町並みの復元

小松天満宮周辺では、小松市、国土交通省、石川県の各事業が一体的に進められてきました。市は旧北国街道筋における歴史的町並みの復元、国は梯川分水路の整備、県は小松大橋の架替を実施し、まちづくり、川づくり、道づくりを行っています(図4、写真6)。



図4 治水対策と一体的なまちづくり



写真6 分水路関連工事の実施状況

事業を進める上では、景観検討に関する市民アンケートを実施して地域の意見を反映するとともに、学識者からなる「小松天満宮整備計画評価委員会」の助言を踏まえて、文化的価値の重要性を勘案して保存と利用への配慮に努めています。これにより、小松天満宮を取り囲む輪中堤は、南北方向に約70m、東西方向に約220mの大きさで、階段状にプレキャスト製品を積み上げた箱型擁壁工法を採用しました。分水路は、幅約20m、延長約320mで、低水護岸には植生機能付きの大型ブロックや魚巣ブロックを採用しています(図4)。



写真9 ドローンによる通水の映像

5. 通水記念式典

平成28年11月20日（日）、石川県小松市天神町地先において、来賓・関係者を含む総勢約60名が参加し『梯川分水路通水記念式』が執り行われました。

式典は、和田慎司小松市長の式辞から始まり、泊宏国土交通省水管理保全局治水課長の挨拶が行われた後、来賓を代表して、佐々木紀衆議院議員、石川県知事（代理）から祝辞をいただいています。

和田市長からは、「昨今は北海道から九州まで予期せぬ大水害が発生している。市民が安心できる生活や、企業が未来志向にたった事業展開ができる社会のために、水害への備えの重要性を次世代につなげていきたい」との式辞が行われました。また、佐々木議員からは、「国の重要文化財である小松天満宮を移転させることなく、分水路方式で浮島として保存された。かつての小松城が浮城であったこと、水郷の町であったことを彷彿させる、この地域ならではの治水事業である」とのお言葉をいただきました（写真7）。



写真7 和田市長と佐々木議員の式辞・祝辞

続けて、富山英範金沢河川国道事務所長の工事説明の後に、くす玉開披が行われると、分水路に梯川の水が流れ込み、UAV（ドローン）のデモンストレーション撮影が行われています。関係者は、上空から撮影した分水路

の様子を映し出すモニターに見入り、地域住民も橋の上から通水の様子を見守っていただきました（写真8、写真9）。



写真8 くす玉開披と通水の瞬間

6. おわりに

梯川改修事業にご尽力、ご協力いただきました関係各位に感謝の意を表するとともに、引き続き流域の皆様のご理解をいただきながら、更なる防災・減災対策を強力に推進して参りたいと考えております。

また、本年度は、前川排水機場が稼働開始から20年、梯川分水路通水が計画決定から20年という節目の年になりました。現在、洪水時には分水路に水を流すことが可能な状態にまで整備が進んでおり、来年度にかけて、前後の河道掘削や護岸の仕上げを行い、最終的な完成を予定しています。関係機関が連携し、本年度から来年度にかけて、梯川改修事業を記念したイベントを行うことで、治水事業の役割や効果を地域の皆様にご理解いただくとともに、防災意識の高揚を図り、今後起こり得る災害に備えて参りたいと考えております。

出典・参考文献

- 1) 梯川水系河川整備基本方針・河川整備計画
- 2) 金沢河川国道事務所HP

随想 新潟から世界へ発信

日本文化で国際交流！

間嶋めぐ

「日本の伝統文化を通じて国際交流をしよう!」という趣旨の活動をさせて頂き、13年目となる。

きっかけは、大学生時代のボストン短期留学に遡る。アメリカ人の方に

「日本の宗教は何ですか?」と聞かれ、

「えっ、仏教…かな?」と答えると

「じゃあ毎週日曜日、お寺に行くの?」と。

「いやそうでもなく。あと神道っていうのもあって…」

「オー、ダブルスタンダード?アンビリーバボー」

「いやそういうんじゃないんだけどなあ…」

などと、しどろもどろになってしまった。

元々が移民の集まりであるアメリカは、それぞれの祖父母の持つ文化背景が多種多様である。そのため自分の意見をはっきり伝える必要性がとても高く「低コンテキスト文化」の国であると言われる。

一方、先祖代々ほぼ日本人である日本は言わなくても分かる部分が多い、「高コンテキスト文化」。いちいち自分の考えを説明をしなくても事足りる。

だから日本人がアメリカ人と話す時は、ことさら相手の目を見て意識的に自分の思いをしっかりと伝える必要がある。それができないと、国際会議などでもジャパン「パッシング」までではなくとも「パッシング」、つまりいないような存在としてスルーされてしまうのでは、と危惧した。

今でこそクールジャパンなどともてはやされているが、実際当時のアメリカ人にとっては、「日本人は何を考えているかよく分からない」というような風潮があったように思う。

そこで帰国後は、国際交流をするには「まずは日本のことを知らねば」と(当時は英米文学科であったが)外国人に日本語や日本文化を教える日本語教育学を副専攻し、更に卒業後は大学院の専門コースに進学した。



ちなみに先の日本の宗教に関する質問には、「日本人は古来神道の国だったが後から大陸から仏教が入ってきた。聖徳太子という人が「和を以て尊し」と為し、日本は両者を「和する」国になった。和を重んじる日本文化のことを「和風」と呼ぶ位だ。元々神道は多神教だから色々な宗教を和する事ができた。七福神など、インドと中国と日本古来の神様たちが一緒になってニコニコ笑っている。」とでも答えるだろう。

そういったことを知った後、大学院では外国人留学生のための寮でスタッフとして一年間を過ごした。そこでは、留学生たちの日常生活の悩みに答えたり、お花見や七夕、お茶会など日本文化体験の行事を行った。

「日本の文化を知らなければ

本当の国際交流にならない」

と思い学んだことが実際に非常に役立ったことから、充実し喜びに満ちた時間を送ることができた。一生、このような仕事がしたいと強く思った。

卒業後はいったん新潟のラジオ局に勤め、延べ7年間程リポーターとして県内各地を巡るお仕事をさせて頂き中で地元の事や物、人々も外国の方々に紹介させて頂きたいと、夢が更に大きく広がった。

まずは日本人が日本の伝統文化にもっと親しもう、と

2003年に金魚亭という団体を立ち上げ、延べ300回以上のイベントを行った。

10年目からは念願の外国と伝統文化同士で交流しようという活動も始めた。

地球上全ての国（国連加盟196から細かい島など入ると210余りと言われる）と交流し、友人になろうというのが目標である。

これまでにインド、アルゼンチン、ドイツ、中国、ミャンマー、フランス、韓国、シリア、ベトナム、ロシア、スリランカなどの方々と交流するイベントを行い、各国のゲストを招いてお話を伺うインターネット番組を制作した。



日本の伝統文化を体験できる古民家で外国からゲストに着物を着せたり、お抹茶を点てたり、会員の方々と街案内もした。

サッカーゲームでアルビレックスが好きになり来県したというフランスの大学生カップルの「日本のカレーライスを食べたい」というリクエストに答え、急遽彼のお誕生日を新潟の若者グループと一緒に祝ったりもした。

外国の方々から教えてもらうことも多くある。シリアには世界一甘いと言われるバクラヴァというスイーツがある。首都のダマスカスは全ての家に最低一本はジャスミンが植えられ、別名ジャスミンシティと呼ばれ季節になると

むせかえるようにジャスミンが香るそうだ。そういう話を聴くとシリアは遠い国ではなくなり、平和が訪れたかの地でジャスミンの季節にバクラヴァでコーヒータイムを皆で過ごしたいと切に願う。

またインドネシアの友人が真夏にお正月パーティーを催していたのだが、聞けばインドネシアのお正月は毎年変わるのだという！狭い日本の風土や人間関係の中で追い詰められ、自殺する程悩んでいる方は一度海外に目を向けてみることをお勧めする。

日中が領土問題で中国との関係がぎくしゃくしている中でも、日中文化交流ライブを行った。政治的な問題を孕む時期の国同士も、文化交流であればお互い純粋に楽しむことができる。

ユダヤ教のヤハヴェもキリスト教のゴッドもイスラム教のアッラーも元は同じ神様、宇宙の創造神である。インドネシアには更にいくつもの宇宙を作り、治めている陽気でユーモアたっぷりの神様もいるという。いつか世界の宗教地図を作りたいという夢もできた。

2020年、東京オリンピックには200か国以上の方が日本を訪れこぞって日本を知りたがっている。

国民一人一人が交流大使となり、世界に友人を作ることと平和な世界に近づけるような活動をしていければと思う。

プロフィール 間嶋めぐ 5月30日生まれ

1996年 昭和女子大学英米文学科

異文化コミュニケーションゼミ、

日本語教育学副専攻卒業

2000年 東海大学院日本語教育学コース卒業

BSNラジオスナッピーリポーター、Fmport、

ケーブルネット新潟アナウンサーを経てフリーに

2003年 金魚亭立ち上げ

写真から読み解く萬代橋

新潟市歴史博物館 学芸課 田嶋悠佑



写真1 萬代橋模型（新潟市歴史博物館蔵）

1. はじめに

新潟県の県庁所在地である新潟市。その玄関口である新潟駅の万代口を出て道なりに西へ1.5km進むと、戦国時代以来、港町として栄えた新潟市の旧市街「新潟町」（現在の通称「古町地区」）に到着する。この道中、信濃川にかかる一本の橋がある。この橋は「萬代橋」という名前で、コンクリート製ながら表面は化粧石でおおわれ、レトロな街灯が備えられるなど優美な姿をしている。萬代橋は新潟市の観光案内に掲載され、歌謡曲などにも歌われる新潟市を代表する風景、シンボルの一つとなっている。

萬代橋が初めて開通したのは明治19（1886）年で、昨年130周年を迎えた。江戸時代まで、信濃川には渡船が運航されていた。明治時代に入ると、明治政府が国内の交通網整備のため、民間事業者に通料金の徴収を認めるなどして橋の建設を奨励した。新潟町と対岸を結ぶ橋の建設について、いくつかの計画があったが、内山信太郎の計画に実業家八木朋直が出資して建設にこぎつけ、明治19年によく開通に至った。

明治19年に架けられた橋の姿は、写真1の模型のように木造で、現在（306.9m）より約2.5倍の782mの長さがあり、現在の姿と大きく異なっていた。萬代橋はこの後、2度のかかけえを経て現在の姿となるのであるが、その歴史をひも解くと、なぜ萬代橋が新潟市を代表する風景、シンボルの一つとなったのかを理解することができると思う。これから、私の勤める新潟市歴史博物館が所蔵している古写真をヒントに萬代橋の歴史をたどってみたいと思う。

2. 初代萬代橋

写真2は写真1と同じ新潟市の旧市街側から撮影した写真である。来航した軍艦が入れこまれ、記念のスタンプが押されていて、橋が開通して20年後の明治39（1906）年の絵葉書とわかる。明治30（1897）年に旧市街の対岸（沼垂）まで鉄道が開通すると萬代橋の公有化論が活発化した。結局、明治33（1900）年に新潟県が経営していた八木から買収し、写真の頃には県営で通行無料となっていた。木造の橋は若干たわんでいるものの未だ健在で、多くの人が行き交っている。写真で萬代橋の一部をみても大量で、太い木材が使われていたのがわかるが、八木の回顧録によると、橋の木材は主に新潟県内から集め、欄干の部分は青森産のヒバを使ったという。



写真2 「新潟萬代橋」（新潟市歴史博物館蔵）



写真3 「明治41年3月8日午後6時出焼失の萬代橋」(新潟市歴史博物館蔵)

3. 二代目萬代橋

膨大な木材を集めてかけられた初代萬代橋だったが、明治41(1908)年に新潟の町中で起こった大火で延焼して焼け落ちてしまった。写真3をみると、橋げたを残して焼失していた様子がわかる。ただ、一部は焼け残り、写真4には奥に焼け残った橋の一部が見える。写真4の手前には船に乗り込む人々の姿がみえるが、これは萬代橋が焼けてしまったため、代わりに兩岸をつなぐため臨時に運航されていた渡船である。渡船は人で一杯になっている。



写真4 「新潟市大火災後渡船場の繁雑及焼残の萬代橋を見る」(新潟市歴史博物館蔵)



写真5 「新潟萬代橋 橋長四百卅間」(新潟市歴史博物館蔵)

萬代橋が新潟の町中側と対岸の新潟駅側を結ぶ市民の足として、もはや必要不可欠なものとなりつつあったことを物語っている。萬代橋は焼け残った部材を利用するなど、急ピッチで再建工事が行われ、焼失の翌年明治42年に開通した。これが二代目萬代橋である(写真5)。二代目萬代橋は初代と同じく木造で、姿もほとんど同じだった。また大量の木材が使用されたが、どこから切り出した木材か不明である。

この二代目萬代橋が使用された大正時代、各地の名所を紹介する絵葉書の発行が流行した。二代目萬代橋についても新潟市の名所として多くの絵葉書がつくられた。萬代橋は市民のライフラインであるとともに、こうした絵葉書などの媒体を通じて新潟市以外の人々にも知られる名所として定着していった。

4. 三代目萬代橋

二代目の萬代橋はその後火災にあうこともなく20年近く使用されたが、その間に社会は確実に変化していた。陸上の輸送手段に自動車が導入されはじめ、萬代橋も、大正時代に入ると橋上を自動車が往来するようになった。橋は今まで以上のスピードで傷み、また橋の幅も歩行者を前提としたものだったので、自動車の通行には不十分だった。ちょうどそのころ、政府の信濃川の改修計画で、上流の寺泊(現、長岡市)付近に河口を持つ分水路の工事が進んでいた。この分水路の開削によって、新潟に流れ込む信濃川の水量が減り、制御できることが見込まれた。また、川幅を狭めて、両岸に埋め立て地の造成が計画された。萬代橋も埋め立て地の造成を期に橋の長さを短くし、車の通行などにも耐えるコンクリート製の橋へのかけかえが計画された。

写真6は橋のかけかえ工事の様子を撮影した絵葉書である。右側が二代目萬代橋だが、たわみが激しく、傷みが進んでいることがわかる。左側が三代目の萬代橋で、現在私たちが通行している橋である。

萬代橋の工事は川底の基礎を約15mも掘り下げる大規模なものだったが、川底から採掘された砂利をコンクリートに利用できたため見込みより安価で工事を行うことができた。橋の側壁は欄干とアーチ部分を除きコンクリートが露出する予定だったが、予算に余裕ができたため、茨城県の真壁産の石を美観と塩害防止のために貼り付け、現在のような姿になった。

写真7が昭和4（1929）年の開通後の三代目萬代橋の絵葉書である。写真6では未完成だった欄干も完成し、現在とほぼ同じ姿となっている。少し現在と異なる点としては、道の中央に線状の部分があることである。これは三代目萬代橋をつくる際に、路面電車を通す計画があり、そのための軌道である。街灯もよく見ると電車の架線をかけるための丸い穴が付けられているのがわかる。ただ、路面電車は計画のみで終わり、萬代橋上を走るとは一度もなかった。三代目萬代橋はその後戦時中の金属供出で開通当初の街灯や欄干を失い、姿を変えつつも戦後を迎えた。



写真6 「変わりゆく新潟新萬代橋」（新潟市歴史博物館蔵）



写真7 「新潟萬代橋」（新潟市歴史博物館蔵）

5. 萬代橋と新潟地震

三代目萬代橋は、大掛かりだった基礎工事はもとより、橋の幅の広さも当時としては広く、開通当初には工事予算や、そもそも橋の大きさ自体が新潟市の規模に見合っていないという批判があった。しかし、そうした架橋工事の真価を問われる事件が開通35年にして起こった。昭和39（1964）年の新潟地震である。

昭和39年6月16日の昼、粟島沖を震源とする地震が起こり、新潟市では震度5を記録し、大きな被害が出た。橋の被害も例外ではなく、直前に架橋したばかりの昭和大桥が落橋したほか、新潟市内の多くの橋が落橋や損壊の被害が出て通行不能となった。では、萬代橋はどうだったのか。写真8は新潟地震後の萬代橋で、萬代橋上流に架かる八千代橋から下流側の萬代橋方面を見たアングルである。撮影の詳しい日時は不明だが、後ろに見える黒煙は昭和石油コンビナートで発生した火災の煙で、7月1日朝に鎮火しているの、6月中の様子である。遠景なので通行人などははっきり確認できないが、橋は地震後も落ちることなく残っていることが分かる。萬代橋も地震による被害を免れず、特に兩岸の橋台付近は亀裂や陥没で甚大な被害を受けた。自動車の通行は当初不能だったが、国道で、なおかつ市の中心部を走る重要な道路であるため、急ピッチの工事で6月17日朝には仮に自動車の通行が可能となった。萬代橋は無傷ではなかったものの、アーチ構造や堅牢な基礎によって落橋を免れた。

早期に開通して市民の復興を支えたことが萬代橋の存在を市民の間に深く印象付けた。この新潟地震という大災害が、結果的に萬代橋を新潟市におけるシンボルとしての不動の地位を築くことになったのである。



写真8 新潟地震後の萬代橋（新潟市歴史博物館蔵）



写真11 現在の万代橋

6. おわりに

新潟地震による損壊の修理によって万代橋は両端の二つのアーチを失い、橋の長さも約2m短くなった。その後大きな変化はなく、元々幅広くつくられた万代橋は自動車時代が到来しても架け替えの必要がなく使用され続けた。昭和54（1979）年には三代目万代橋架橋50年、昭和61（1986）年には初代万代橋架橋100年を迎え、百周年事業など、次第に万代橋の歴史的価値が評価されるようになった。平成に入ると万代橋の文化財指定を目指す市民らの運動が高まり、平成16（2004）年万代橋の国指定重要文化財指定として実を結んだ。また、この重要文化財指定に合わせて市民の募金などによって、戦時供出で失われた街灯が復元されるなど可能な限り三代目万代橋開通当初の姿に復元され、今日見られるような姿になったのである。



写真9 初代万代橋東詰跡のモニュメント

ここまで写真を基に万代橋の歴史を振り返ってきた。万代橋は新潟市が明治時代から歩んだ歴史を刻む場所であるとともに、市民によってその優美な姿が守られた、まさに新潟市を代表する風景、シンボルの一つなのである。

現在、新潟市内には万代橋の歴史を知ることのできるスポットがいくつかある。歴史博物館には写真1の模型や橋の柱が展示されている。

また、新潟駅から万代橋に向かう途中、450mほどのところに初代万代橋東詰のモニュメントが設置され、橋の欄干と橋名板が復元されている（写真9）。また、現在の万代橋の東詰の近く「万代クロッシング」には、工事で出土した初代万代橋の木杭の実物のほか、万代橋の歴史を紹介する展示がある（写真10）。

新潟を訪れた際には、万代橋の姿をご覧いただくとともに、こうした関連スポットを訪れてみられてはいかがだろうか。



写真10 万代クロッシングに展示されている初代万代橋で使用された木杭

2017年桜前線と 日本三大桜

中越トラベル(朝日交通㈱観光部) 取締役支配人 山崎康裕

この記事が載る頃は真冬なのかもしれませんが、一足早く今年の桜前線の行方をお知らせ致します。開花予想は2009年まで気象庁が行っていましたが、現在では気象関連の会社が行っております。しかし、気象庁は、開花宣言(標本木に5・6輪の花が咲いた時)は現在も出しています。

以前、気象庁が開花予想を出していた時の方法は、「標本木(ほとんどがソメイヨシノ)」の状態を見て、蕾の状態などを観察して、過去のデータ等と照らし合わせて予想していました。現在も同じような方法で、気象関連業者は予測を行っているようです。

一例として、鹿児島では開花予想日が4月5日頃で、昨

年の開花日より15日遅くなる見込みと発表されています。また、札幌では4月29日開花日で、昨年よりも7日遅いとの事でした。

平年から見ますと鹿児島で10日遅く、札幌では4日早い状況です。その他の地区では、九州から関東辺りまでが平年並みで、北へ行くほど平年よりも早い開花となる見込みです。

桜が咲いていても開花宣言が出ない場合があります。これは、開花宣言を行う気象庁の標本木のほとんどがソメイヨシノの為に、標本木が咲かなければ開花宣言は出ない仕組みです。

日本三大桜は、ご存知ですか？

福島県の「三春の桜」、山梨県の「山高神代桜」、岐阜県の「梶尾谷淡墨桜」の3つになります。この3つは、国指定の天然記念物となっております。



福島県 — 三春の桜

福島県の「三春の桜」はベニスダレザクラで、樹齢1,000年以上と言われ、根回り13.5m、枝張り西へ14m、東へ11mの巨木で、近くで見るとその迫力に圧倒されます。



開花予想日	4月4日	満開予想日	4月14日
観桜料	大人 300円		
時間	6:00~18:00 (ライトアップ時 20:30まで)		
アクセス	自動車の場合は、磐越道「船引三春IC」より20分ですが、渋滞には注意が必要です。駐車場は、無料ですが桜の場所まで300m程あります。 JR磐越東線「三春駅」より車で15分程度です。		



ちなみに、満開は80%程度の花が咲いた時に満開としています。天気や温度等と桜の開花は、密接な関係にある為、単なる予測と考えておいてください。当然、標高の違いによっても変わりますので、お目当ての桜の名所がありましたら、細かくチェックする事をお勧めいたします。

ピンポイントの予想として新潟、富山、石川の桜の名所では、新潟県の鳥屋野潟公園は4月9日開花予想日、満開

予想日は4月15日となっております。富山県の松川公園は4月6日開花予想日、満開予想日は4月13日で、石川県の兼六園は4月8日開花予想日、4月15日満開予想日となっております。

「花より団子」と言われる方もいらっしゃいますが、桜の満開の下でお酒や食べ物を食べると一味違った味がします。ごみの処理は、持参した方が必ず行いましょう。

山梨県 ― 山高神代桜

山梨県の「山高神代桜」はエドヒガンサクラで、日本武尊（ヤマトタケル）が植えたと言えられる日本最古の桜で樹齢2,000年とも言われております。国指定天然記念物第1号としても有名です。

開花予想日	3月29日	満開予想日	4月1日
駐 車 場	境内に駐車場があります。 (普通車 500円)		
ア ク セ ス	中央自動車道「須玉IC」より車で15分です。道幅が狭いのでご注意ください。 JR「日野春駅」より自動車で15分。タクシーで2,000円程度です。		



岐阜県 ― 梶尾谷 淡墨桜

岐阜県の「梶尾谷 淡墨桜」は、桜の名前が前面に出るように、淡墨桜は300種類以上と言われる桜の中でも上位に当たる品種で、蕾の時は薄いピンク、満開の時は白色、散り際は薄い墨色を帯びてきます。こちらも樹齢1,500年以上と言われております。

開花予想日	4月3日	満開予想日	4月9日
駐 車 場	淡墨公園内に駐車場があります。 (普通車 500円)		
ア ク セ ス	名神高速道「岐阜羽鳥IC」より国道21号、国道157号を経由して80分です。若干不便な場所の為、自動車を利用される方が多く、シーズンには昼前に満車となります。ご注意ください。 北陸方面から東海北陸道を利用して「郡上八幡IC」より国道256号線を利用した方が便利です。峠越えですが80分ほどで到着します。		



桜は、日本の象徴する花です。今年こそ日本三大桜をお尋ねください。

日 時：平成28年12月13日（火） 15時30分～17時

会 場：ラマダホテル新潟 3階「明石の間」

出席者 北陸地方整備局：渡辺企画部長
高島地方事業評価管理官
倉重技術調整管理官
鈴木技術開発調整官
畠中河川情報管理官
山本道路情報管理官
土田技術管理課長

協会北陸支部：寺本支部長、
新家・吉田・中俣副支部長、
藤巻顧問、
高田運営委員長ほか委員6名、
坂上対外活動部会幹事ほか会員4名、
青木総括部会長、渡邊技術部会長、
佐々木広報部会長、松浦事務局長

◆挨拶

○渡辺企画部長

今年度当初の北陸地方整備局の事業費は、全体3,813億円、この内、直轄事業費が1,350億円、補助事業・交付金が2,463億円、当初予算については、上半期8割の執行目標に対し79%を超える結果であった。



建設業の現状を見ると、新幹線整備事業が一段落したこともあり、平成25年度に対する平成27年度の請負額は、富山県で4割、石川県で2割、新潟県で2割のマイナスとなり、業界全体として非常に厳しい状況にあると認識している。そんな中、2次補正予算が成立し、北陸地整全体で857億円、内直轄に243億円、補助に614億円の予算が付いた。平成24年度ほどの規模ではないが、ここ3年の中では1番多く、まずは直轄の補正予算について早期執行する予定である。

また、自治体についても私どもから早期執行をお願いしているところである。

これから12月は来年度予算案の決定、年明けから国会審議となるが、北陸管内を見ると、度重なる自然災害や、これからの経済の発展に資する公共事業はまだまだ必要だと考えており、来年度当初予算獲得に向けて全力で取り組んでいきたいので、協会からも支援をお願いしたい。

○寺本支部長

平成28年度公共事業予算は前年度並に確保、又熊本地震復興のための第1次補正予算の確保、安全・安心、防災対策強化等の第2次補正予算の公共事業関係費1.4兆円も確保され、改めて建設産業の重要性が認識されているところです。北陸地方にとっても例外ではなく安全・安心な暮らしを守り、地域の生産性向上を支えるインフラ整備は不可欠です。



そのため、今後のインフラ整備の予算は、計画的・安定的、持続的に実施する観点から、年度当初予算の増額確保が重要です。

次に、建設コンサルタント業の企業経営基盤の安定化に向けた環境整備についてです。平成27年度国土交通省直轄コンサルタント業の落札率は、平成26年度に比べ1.6ポイント下降して82.6%となっています。一方、工事の落札率は、91.2%と10ポイント近く高い状況になっています。コンサルタント業務の調査基準価格の平均は73%から78%に引き上げられましたが、工事も落札率同様およそ10ポイント近く高い値となっています。建設コンサルタント業の利益率は、低下しており、又資金規模の小さい企業の占める割合が比較的高い業種であり、利益率の確保が大変重要です。

落札率に大きく関わる調査基準価格の引き上げを引き続きお願いいたします。

続いて魅力有る建設コンサルタント業に向けた環境整備についてです。品質確保・向上や生産性向上を図る上から納期の年度末集中に対する平準化は大きな効果を発揮します。また、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革による就業環境改善は、年度末の多忙によるコンサルタント業のマイナスイメージを解消して、担い手確保対策についても大きくイメージアップすると考えられます。

建設コンサルタントは、北陸の生産性向上を支える社会資本整備・管理に積極的な役割を果たして参ります。

◆意見交換

1. 入札契約に関する事項

(1) 適切な発注方式の選定

「建設コンサルタント業務におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライン(H27.11)」に基づき平成28年度に発注された業務において、一部適切ではないと思われる事例が散見される。

(事例) 実施契約方式→本来適用すべき契約方式

総合評価落札方式(1:1)→プロポーザル方式

総合評価落札方式(1:1)→総合評価落札方式
(1:2、1:3)

【回答】

発注方式については、業務の難易度に応じて適切に選定するようこれまでに各種会議等で指導しており、引き続き適切な発注に努めて行く。

(2) 総合評価落札方式の価格点・技術点の割合

価格点・技術点の割合(1:1~3)を考慮して入札率を決定している会社が約4割、価格点・技術点に係わらず入札率を同様に応札している会社が5割以上占めている実態が有る。現状では、本来の技術の評価が適切におこなわれる仕組みが必ずしも生かされていない。

適正な価格での受注環境を構築できるよう技術評価の適正化について検討いただきたい。

【回答】

- ・総合評価落札方式の落札率については、概ね評価テーマを求める「標準型」の方が、評価テーマを求めない「簡易型」より高い傾向にある。
- ・今年度から受発注者の負担軽減、及び総合評価1:3活用を促進するため「総合評価1:3における評価テーマ1課題」の業務を試行している。
- ・今年度、他地方整備局では、標準型において評価テーマを求めず、その分の点数を「技術者の成績・表彰」と「実施方針」へ配分する「技術者評価を重視した選定

(全国試行)」も実施していると聞いている。

- ・今後も高度な技術力が必要な業務は、これら技術力を重視した選定方式を活用するよう努めてまいりたい。

(3) 優良業務表彰・優良業務技術者表彰の評価の扱い

全国実績を評価対象とする業務で、他地方整備局の(企業)優良業務表彰及び優良業務技術者表彰を評価する場合は、北陸地方整備局と他地方整備局の評価に重みを付けることを提案します。

【回答】

参加表明者(企業)や予定管理技術者の「表彰」に関する加点については「成果の確実性や業務執行技術力」を評価するものであり、「地域貢献度や地域精通度」とは異なるものと考えており、理解いただきたい。

(4) 業務経費の見直し

今年度、調査基準価格に係わる諸経費の引き上げがなされ感謝申し上げます。しかし、競争が激化する現状では、まだ適正であるとは言えない状況にある。

特に、道路詳細設計においては、設計計画検討において標準歩掛りと乖離している状況が散見される。

このため業務経費の見直し及び詳細設計の実情を踏まえた歩掛りの見直しを要望します。

【回答】

- ・毎年、対象工種を選定し、実態調査を実施している。
- ・今年度は、道路予備設計関係やICT活用を推進する上で必要となる3次元測量関係を始め12工種について調査を実施中。
- ・適切な歩掛りの設定は、職場環境の改善からも重要であり、意見は引き続き本省に伝える。

2. 品質確保に関する事項

(1) 履行期限の標準化

- ・早期発注の促進

(2) 当初発注における適切な工期設定

- ・年度末工期の解消を踏まえた、十分な工期の検討及び国債や繰り越し制度の活用を要望。

【回答】「(1)(2)一括回答」

- ・今年度は、特に上半期8割程度発注した。履行期限の平準化については、必要な工期を確保した上で、年度末に工期が集中しないよう、早期発注に取り組んでいる。しかしながら、結果として、工期変更等で年度末の目標が達成出来ないことは認識している。
- ・引き続き原因の分析を行い、適正な工期及び履行期限

の設定に努めてまいる所存。

- ・国債の積極的な活用や、やむを得ず工期の延伸が必要になった場合には翌債（繰越）制度の活用についても、引き続き事務所へ周知していく。

（３）詳細設計の照査

詳細設計では、履行期間の不足、関係機関協議の遅延等から、段階照査が十分でない案件が見受けられる。

段階照査を確実に実施するためにも、十分な履行期間の設定と条件明示チェックシート、業務スケジュール管理表の活用の徹底を要望します。

（４）条件明示チェックシートの活用

詳細設計業務における条件明示対象業務の割合は依然として低く、対象業務においても「業務条件」「設計条件」ともに提示された業務は半数以下で、条件明示チェックシートの活用が十分とはいえない状況にある。

「業務条件」は発注者からの提示が必要であり、業務条件提示の遅れは、工期遅延による業務集中時期の発生、段階照査の阻害要因となるため、条件明示チェックシートの活用と確実な実行の徹底を要望します。

（５）業務スケジュール管理表の運用

スケジュール管理表の提出期限は、15日以内となっているが、当初発注の特記仕様書及び条件明示チェックシートが不十分な場合が多く、暫定的にスケジュール管理表を15日以内に提出し、その後追加条件等を把握した段階で再提出しているのが実態。

このため、初回の業務スケジュール管理表の提出時期を「15日以内」から「速やかに」へ変更することを提案します。

【回答】「（３）（４）（５）一括回答」

- ・条件明示チェックシートは、詳細設計8工種を対象に、予備設計段階で受注者により作成・納品されたものを、発注者が確認・追記して、詳細設計の受注者に提示している。
- ・「条件明示チェックシートの活用が不十分」な原因については、予備設計と詳細設計の間に相当期間が経過したため、「諸条件が変化した」ケース等が有り、引き続き適切に活用されるよう指導してまいりたい。
- ・業務スケジュール管理表については、貴協会の協力をいただき、簡素化・改良した結果、受注者から好評を得ており感謝申し上げます。
- ・業務スケジュール管理表の運用は、適切な時期に適正な内容で作成されるべきであり、提案の「提出時期」については検討してまいりたい。

（６）工事連携会議

殆どの工事連携会議において、事前に「施工者からの質問事項に対する回答資料作成」の要求があり、その作成に半日又は1日の時間を要している。また、無償での資料作成も散見され、これらの資料作成費用支弁を要望します。

【回答】

- ・工事連携会議で必要となる資料の作成費用は、「発注者が設計者と契約を締結し、必要な金額を適宜計上する」としており、ご指摘の無償作業依頼が発生しないよう引き続き事務所へ指導して行く。

（７）ウィークリースタンスの更なる取り組みと県市町村など自治体への普及拡大を提案します。

【回答】

- ・災害・国会・地元対応などの緊急を要する場合の対応、一方で、今後の試行を水平展開して欲しいとの話もあるので、課題を把握し改良・改善を進めて行きたい。
- ・県・市町村への展開については、スタンス・姿勢だけでなく実行を伴う事が大切であることから、現状の課題を含め考えていきたい。貴協会からも意見・提案をいただきたい。

3. その他

（１）設計図・参考図・施工図の整理

【回答】

- ・設計図・参考図・施工図の取り扱いについては、11月に実施した「設計業務品質確保に関する研究会」での方針に基づき、年度内を目処に整理した上で「わかりやすい運用」を作成したいと考えている。
- ・事務所へは平成29年度からこの運用に基づき実施するよう周知する。

（２）地域コンサルタントにおけるCIMへの取り組み

i-ConstructionにおけるCIM導入ロードマップでは、平成28年度に「CIM導入ガイドライン」を策定する予定となっているが、CIM導入に向けた今後の具体的な予定・展開等について教示いただきたい。

【回答】

- ・今年度までの実施結果の他、新たな構造物のCIM設計成果も加えて「設計・施工・維持管理段階での効果」について検討すると共に、今年度策定予定の「CIM導入ガイドライン」を踏まえ、皆様方に意見・協力をいただきながら取り組んでいきたい。
- ・特にICT活用工事については、地元のCクラスの建設会社に加え、地元の測量・設計コンサルタントが対応可能な形も考慮しながら取り組んでいきたい。

お知らせ

新潟県との意見交換会の概要

〈新潟地域委員会〉

日 時：平成28年10月18日（火） 15時～17時

会 場：ラマダホテル新潟 3階「明石の間」

出席者 新潟県：美寺土木部長、坂井技術管理課長、山ノ内道路管理課長、鈴木道路建設課長、
 笹川河川整備課長、荻原砂防課長、吉田都市整備課長、吉田新発田地域整備部長、
 関津川地区振興事務所長、宮野三条地域整備部長、大野長岡地域整備部長、
 諏佐魚沼地域整備部長、新部上越地域整備部長、三木糸魚川地域整備部長、
 藤井佐渡地域整備部長

北陸支部：中俣新潟地域委員長、高田運営委員長、青木総括部会長、渡邊技術部会長、佐々木広報部会長、
 運営委員：大平、涌井、新潟地域委員：山岸、船谷、齊木、大塚、折笠、松浦事務局長

◆開会あいさつ

○中俣新潟地域委員長



- ・業務の平準化は成果品の品質確保と各社の生産性向上、業務環境改善、担い手確保、適正利益の確保に重要な影響を与えるものであり、早期発注と繰越制度の柔軟な対応、債務負担行為の活用をお願いしたい。
- ・担い手確保については本協会も危機感を持って対応しているところであり、建設コンサルタントを「給料が良い」「休暇が取られる」「希望が持てる」の新3K業界にするために努力してまいりたい。
- ・建設コンサルタントは社会資本の整備・保全・更新にあたる発注者のパートナーとして、その責任を自覚している。今後も地域に貢献する企業として存続して行けるよう指導と支援をお願いしたい。

○美寺土木部長



- ・品確法の趣旨に沿った業務の平準化に対応するためこの9月県会で治水事業を中心とした債務を設定した。12月議会には道路事業の提案を考えたい。
- ・債務は工事予算だけでスタートすることとなるが、年を経れば委託業務にも対応していくことになるだろう。
- ・担い手確保ということでは、生産性向上が期待されるi-Constructionにも県としてしっかりと取り組んでいきたい。
- ・建設コンサルタント業界において業務の平準化と並ぶ重要課題である片務性の解消についても、特に意識して取り組むこととしたい。

◆意見交換

(進行：高田運営委員長 説明：山岸新潟地域委員)

1. 土木部予算等について 【県からの説明の要旨】

①繰越の状況

- ・27年度の繰越は未契約を含めて約495億円となり、前年度の約625億円からは改善が進んだが、まだまだ多い。

②社会資本維持管理計画の状況

- ・点検は概ね順調に進んでいるが、点検に多額の予算が必要となり補修に回す予算の不足が懸念される。点検基準の見直しの必要性を感じている。
- ・河川では小規模修繕や予防措置が交付金事業の対象外で県単独事業対応だが、交付金対応となるよう努力したい。
- ・一部自治体を除いて、市町村管理道路の点検は建設技術センターが受託して一括発注しているが、この方法は来年度も継続する。

2. 地域調達について【県からの説明の要旨】

- ・「新潟県中小企業者の受注機会の増大による地域産業の活性化に関する条例」の趣旨に沿って地域産業の活性化に努めている。
- ・27年度の建設コンサルタント業務委託の県内業者の受注状況は件数76.1%、金額69.2%となった。工事の件数97.2%、金額94.4%には及ばないが、ほぼ例年どおりとなった。

3. 業務の平準化に対する取り組みについて

①具体的な取り組み

- ・委託業務の上半期発注目標を設定するとか、地域機関に対して早期発注を指導するなどして、委託業務の平準化が図れないものか。
- ・また、委託業務にも債務を設定して年度初めの業務量を確保することは可能か。

【回答】

- ・設計委託業務は工事が適切な時期に発注・施工できるように計画的に発注されるべきものである。地域機関に対しては繰越制度の柔軟な運用や年度末履行の集中回避を指導している。
- ・債務については財務規律の観点から難しい問題である。先に債務ありきの議論ではなく、個別の業務における債務の必要性和成果の品質への影響などを「見え

る化」して示してもらえば、それに応じた発注を考えていく必要はあるだろう。

②繰越の取り組み方針

- ・業界としては、繰越は業務の平準化に実質的な効果があると評価しているが、それが予算の削減につながるようでは困る。その辺の状況はどうか。
- ・やむを得ない理由があって繰越するべきものまで無理やり年度内完成を強いることは避けていただきたい。

【回答】

- ・契約済みの業務が、予見できなかった事情が生じて繰越になるのはやむを得ないことであり、それはこれまでと変わらない。
- ・未契約繰越が、お金が市場に出ていかないということで予算削減の議論につながりやすいのではないと思うが、その年に真に予算を必要としている場所はほかに必ずあるので、本来は、未契約繰越は避けるべきものだ。
- ・事情があって第4四半期まで発注できずに来たものを未契約繰越にしたり、あるいは強引に発注して繰越にするようなことは避けるべきだ。もし発注できるものならば債務を充当する方向に変わっていくべきだ。

4. その他

○ME資格の活用方針

- ・インフラ再生技術者育成新潟地域協議会が養成するMEの活用について現状と今後の方針を聞きたい。

【回答】

- ・28年度から道路施設点検における点検員の資格要因のひとつとして活用している。
- ・今後の活用は国や他の自治体の動向を見て検討していく。

5. 閉会あいさつ

○高田運営委員長

- ・担い手確保と育成のために官民連携して足元を固めることが大切なことだと思っています。このための自助努力は言うまでもないことですが、県には条件明示の徹底、適切な工期設定、年度末納期集中の是正、繰越の柔軟な運用などをよろしくお願いします。
- ・この点については、県には最も理解をして運用していただいています。ですが、ことの重要性から重ねてよろしくお願いします。

お知らせ

新潟市との意見交換会の概要

〈新潟地域委員会〉

日 時：平成28年11月9日（水） 15時～17時

会 場：ラマダホテル新潟 3階「明石の間」

出席者 新潟市：大沢土木部長、大勝都市政策部長、岡田下水道部長、朝妻財務部長、樋山技術管理センター所長、
 （14名） 笠巻技術管理課長、高橋土木総務課長、柳田道路計画課長、帆苅下水道計画課長、
 内藤契約課長、風間東部地域土木事務所長、梅津西部地域土木事務所長、
 甲田東部地域下水道事務所長、河原西部地域下水道事務所長
 北陸支部：中俣新潟地域委員長、高田運営委員長、大平運営委員、涌井運営委員、渡邊技術部会長、
 （13名） 佐々木広報部会長、新潟地域委員（船谷、齊木、折笠、大塚、林（参与）、相田（参与））、
 松浦事務局長

◆開会あいさつ

○中俣新潟地域委員長



- ・ 今年の2月から委託業務の最低制限価格の算定法の見直しをしていただき、最低制限価格が実質的に引き上げられたことに感謝する。
- ・ 改正品確法は、昨年4月から本格運用され、その精神が発注者、受注者双方に徐々に浸透してきたが、当局としてなお一層、改正品確法運用指針に沿った対応をお願いしたい。
- ・ 業務の平準化が、委託業務の品質確保、生産性の向上、業務環境の改善、担い手の確保のために必要であり、早期発注、繰り越し制度の柔軟な活用、債務負担行為の活用などを切に願います。

○大沢土木部長



- ・ 新潟市は、政令市に移行して今年で10年目となり、安全安心で持続可能な政令市づくりを市民との協働で進めることとしている。
- ・ 平成28年度の土木部当初予算は、対前年比7%減であったが、この度、国の2時補正で社会資本整備総合交付金は、当初配分額の34%の内示をいただいた。11月18日からの臨時議会で承認後、スムーズに執行していきたい。
- ・ 今回、品確法等の議題については、重要な課題であると認識している。できるものからスピード感を持って改善していきたい。

◆意見交換

(進行：高田運営委員長 説明：齊木新潟地域委員)

1. 改正品確法運用指針について

①新潟市の取り組みとその成果について

【回答】

- ・市が課題とすべき事項に関しては、地道に取り組んでいる。
- ・委託業務の落札価格についても、急激ではないが徐々に改善の方向にある。
- ・地域機関のほうにも文書等で通知を行っている他、運用指針についても研修等を通じて繰り返し説明をしている。
- ・国や県の動きを注視しており、新潟市も遅れをとらないよう対応していきたい。

2. 円滑な業務の実施について

①発注・納期の平準化の取り組みとその成果について

- ・平準化に対する取り組み状況と実績について伺いたい。特に繰越しおよび債務負担行為の活用についてごお聞かせ願いたい。

【回答】

- ・土木部に関しては、平成29年度に予定していた約1200橋の点検について、補正対応として今年度に前倒し発注予定。これについては、全額繰越しになるだろうと考えている。繰越しに関しては委託業務についても、拡大していく方向で考えていきたい。
- ・債務負担行為については、昨年2月の総務省・国交省の連名通知もあり前向きにとらえていきたい。今回は試行の位置づけで、工事のみ11月議会に債務負担行為を提案したいと考えている。試行結果を受けて、課題等を整理した上で来年度以降、委託業務についても活用方法について考えていきたい。
- ・下水道部に関しては、既に部独自に債務負担枠を持っているため、それを活用して納期の平準化に努めていく。具体的には、業務委託として実施設計、測量委託など、事業費として5800万円、19件を今年度内に発注する予定。

②関係機関協議の進捗状況を反映した納期設定について

- ・設計業務委託を測量や地質調査と並行して同時発注することがあるが、測量や地質調査及び関係機関協議

に要する日数を反映した設計業務委託の納期設定となるようお願いしたい。

【回答】

- ・関係機関との協議、並びに測量とか地質調査とかの関連で遅れがちになることもあるが、それらのことから納期内に完了しない場合は、繰越しも視野に入れながら皆さんと協議をさせていただき、円滑に業務を進めるように心がけていきたい。

③適切な設計変更の取り組みとその成果について

- ・新潟市は、昨年度「設計変更ガイドライン」を策定されたが、このことも踏まえて、適切な設計変更の取り組みとその成果について伺いたい。

【回答】

- ・「設計変更を含む片務性の解消」と「設計変更ガイドラインの取り組み」の両方を実施している。
- ・片務性の解消については、担当職員の研修において、業界団体から寄せられた片務性解消の要望とそれに対する市の回答を示すことをはじめとして、打ち合わせ簿の書面による協議をしっかりと行うことなどを周知してきている。片務性の解消に関する研修に関しては、平成25年から継続して行っており、今後も継続していきたい。
- ・市の設計変更ガイドラインについては、平成28年1月に策定し公表してきており、継続的に研修の機会を捉えて説明を行い、周知・徹底を図っている。

④発注者・受注者間の協議の迅速化

【回答】

- ・受・発注者間の協議事項については、回答期限を明確にする、ワンデーレスポンスの実施などについて、研修の場で繰り返し周知を図ってきている。
- ・協議事項については、打ち合わせ簿をお互い取り交わして、受・発注者間での誤解・見解の相違がなくなるまで徹底するよう周知している。

3. 入札契約制度について

①設計委託業務の落札率の現状

【回答】

- ・コンサルタント業務の落札率については、平成27年度実績で85.3%、前年度より0.6%上昇している。

②最低制限価格変動制の活用の狙い、実績及びその評価

- ・最低制限価格変動制は、コンサル業界では評判が悪い。最近新潟市の案件で60%の落札率のものがあつた。予定価格よりも30%~40%も安い落札があるという制度はおかしいのではないかと。後継者の確保もままならず、改正品確法の運用指針が示す方向に逆行しているのではないかと考えるが、変動制活用の狙い、実績、その評価について伺いたい。

【回答】

- ・変動制については、平成16年に官製談合事件が新潟市にあり、「改善措置要求」を受けた。当時の競争性強化の流れの中でコンサル業務については平成20年度から、試行という形で導入している。
- ・政令市で委託業務で変動制を実施しているのは、新潟市と相模原市の2市のみ。
- ・新潟市の平均落札率は政令市中8位。政令市の中では、中位よりも下位になったことはない。
- ・今年の2月から異常値として排除する低価格の応札について、それまでの60%を70%に上げたということで、平成28年度上半期の最低制限価格の平均設定率は78.1%と、昨年度より0.5ポイント上がっている。
- ・落札率については、今後も注視しながら異常値の排除レベルについては、機動的に調整を図っていきたい。

4. 橋梁アセットマネジメントの取り組みと今後の方針について

①包括的契約手法について

- ・橋梁アセットマネジメントは、包括的契約手法ということで、我々の業界とも深く関わり合いがあると思うが、取り組みの現状、今後の展開などについて伺いたい。

【回答】

- ・平成25年の道路法改正により、新潟市では約4040橋が点検対象となり、市の担当者不足が今後の課題となっている。
- ・昨年10月頃からアセットマネジメント検討委員会を立ち上げ、産学官連携ということで検討を進めている。今年度末で、一定の方向性を出したいと考えている。
- ・包括的契約の「包括」には、二つの意味がある。複数橋梁をまとめてという意味と、業種をまとめてという意味での「包括」。
- ・モデル事業として“緊急を要する要対策橋梁の補修・

補強”、“小規模橋梁（2~15m）の地域建設業者による点検”、“長大橋梁の年次点検と小規模修繕・維持作業”の3タイプを検討中だが、前2タイプを今年度中に社会実験を開始したい。

- ・コンサルタンツ協会、建設業協会からも意見を聞きながら進めていきたい。

5. 新潟市事業の最近の状況について

【新潟市の各部、各事務所から今年度の主要事業の進捗状況、及び業務の円滑な執行に関する取り組み等について概略を説明していただいた。】

6. 閉会挨拶

○高田運営委員長

- ・建設コンサルタンツ協会は、人材と技術が経営の全て。労働環境の向上と適正な利潤の確保に我々も努めていきたい。担い手確保のためにも、官民が連携して協力していくことが大事であり、本日の意見交換の提案にご理解をお願いしたい。

長時間にわたり意見交換させていただきありがとうございました。

1. はじめに

北陸地方における建設界では、若年入職者の減少や離職者の増加が問題となっており、建設界の使命、やりがい、魅力を発信し、建設界に対する好印象の醸成が必要となっている。平成26年度には、産学官が一体となって取り組みを推進していくことを目的に「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」（事務局：国土交通省 北陸地方整備局 企画部・建政部）が設立されている。

当協会北陸支部においては、建設系大学へのPR冊子の配布・説明会の開催をはじめ、小学校高学年や高校生を対象とした出前講座に取り組んでいるところである。

2. 県立新潟工業高等学校「出前講座」

(1) 出前講座の背景と目的

新潟県立新潟工業高等学校では、土木科2年生の授業で道路設計演習（表1）を行っている。その内容は、平面図や縦断面図、横断面図等の図面作成の基礎部分になっており、より深く道路設計を理解し興味を持ってもらうにはプロフェッショナルである建設コンサルタント技術者から指導して欲しいとの要請があった。そこで、平成26年度より「建設界の担い手確保・育成」の一環として、出前講座を開催することとなった。

表1 道路設計演習の概要

演習項目	内容
設計条件の整理	先生が設計速度や縦平面線形最小値等の条件を提示（道路構造令の学習は3年生）
平面図作成	1/1,000地形図（A1）に、直線及び単曲線により自由に道路中心線と車道幅を図化
縦断面図作成	平面図から標高を読み取り、縦断面図（地形）を作成。同図に縦断面計画高・縦断面曲線を自由に設定し、各測点毎の道路計画高を計算
横断面図作成	平面図から標高を読み取り、横断面図（地形）を作成。同図に、縦断面図による道路計画高を踏まえ、切盛形状を指定勾配で図化

(2) 平成26年度出前講座の内容

平成26年度は、概ね演習が進んだ時期に「道路設計」の実際を少しでも理解してもらうため、道路設計の流れ、最小縦平面曲線や幅員など幾何構造基準の意味、設計における留意点、設計例等について説明を行った。

(3) 平成28年度の出前講座の内容

平成27年度に、授業での演習の際に「演習（設計）したものを立体的にイメージできることにより、道路設計の理解を深める」という主旨で、演習期間の初期に現場見学を行った。その結果、完成した道路を見るだけでなく、設計の考え方に関する説明を聞きながら見学することによりわかったことが多いと好評であった。このため、H28年度も現場見学を行うこととした。

- 1) 日 時：平成28年10月21日（木） 3限～6限
11:00～14:40 現場見学
14:40～15:33 座学
- 2) 見学先：国道113号ござれや阿賀橋付近
※座学は、学校の実習室で実施
- 3) 対 象：土木科2年生 40名



現場見学位置図

4) 見学概要

①事業概要・整備効果説明

見学箇所は、「一般国道113号松浜橋上流橋」として国土交通省新潟国道事務所が平成13年度～平成21年度に事業（直轄権限代行）し、現在、暫定2車線として開通している。見学に先立ち、新潟国道事務所 計画課長 福島晶子氏より、新潟国道事務所の仕事、事業の目的、整備効果について説明を頂いた。

- ・事業目的：国道113号松浜橋の渋滞緩和・事故削減、通行障害の解消など
- ・整備効果：東港地区～新潟市中心市街地の旅行速度向上・所要時間短縮、死傷事故の削減、大型車の交通円滑化



新潟国道事務所からの事業概要等説明状況

②整備形態の説明

見学対象区間の将来計画は4車線、立体交差の道路であるが、4車線整備には費用も時間もかかり、開通の遅れや交通問題が続くことが懸念される。このため、当面の整備形態は2車線で一部を平面交差点として工事の期間やコストを削減し、整備効果が早期に発現する暫定施工が採用されたことを説明した。現況では道路沿いに未利用の土地が多くみられるが、将来計画に合わせて道路用地を確保しているためであることも説明した。

③ござれや阿賀橋（橋長937m・13径間）計画説明

橋梁付近の設計における主な考え方、施工方法等を説明した。

- ・堤防断面：計画高水位は護岸（現場は張ブロック）の上端、それより上は波浪等に対する余裕高
- ・橋台位置：河川流下断面に入らないように設定
- ・径間数：河積阻害率5%以下となるよう設定
- ・上部工と橋脚：耐震性を向上するため一体化
- ・橋梁形式：経済性のほか構造的、施工性、環境への適応性、維持管理性など様々な観点から比較評価し決定

- ・上部工と下部工の間：剛結構造以外はゴム支承
- ・道路縦断：左右岸の交差道路の建築限界確保、排水性・走行性に配慮した勾配などから計画
- ・上部工施工方法：左岸は仮栈橋、右岸は台船
生徒からは「箱桁の内部を点検するとき、どうやって中に入るのか」といった質問も受けた。



橋梁見学（左岸側高水敷）

④ボックスカルバート計画説明

大型プレキャストボックス、現場打ちの単ボックスと3連ボックス、プレキャストと現場打ちの併設箇所を見学した。各形式の採用理由を次のとおり説明した。

- ・断面が大きいボックスの場合、一般的に現場打ちの方が経済性に優れる
- ・プレキャストは工場製作部材を現場に設置するもので、現場での作業が少なく工期短縮が可能のため、交通規制を伴う現道上などで採用
- ・プレキャストは部材厚が薄いため、道路や橋梁の縦断を低く抑えたい場所で採用
- ・交差道路の全幅が16mで両側に歩道もある箇所では歩車道を分離した3連ボックスを採用
- ・3連ボックスは橋梁とする案も考えられるが、この現場では基礎杭が不要なボックスが有利

生徒からは「3連ボックスの中壁にあるスリットは何のためか」といった質問も受けた。



大型プレキャストボックス見学（左岸側）



現場打ちボックス見学（右岸側）



現場打ち3連ボックス見学（右岸側）

⑤調整池の計画説明

当該区間は、水田地域に整備された道路であり、道路排水は既存の農業排水路に流入している。道路を建設すると、舗装や側溝整備などにより従前に比べ雨水が地中に浸透しにくくなり、下流までの到達時間も短くなる。雨水流出量が増加する場合の対応としては下流の既存水路を改修する方法もあるが、この区間では広い道路用地を活用して治水ダムと同様の機能をもつ調整池を設け、流出量のピークカットを図る計画としていることを説明した。



調整池見学（左岸）

⑥平面交差点の計画説明

現在は平面交差、将来は立体交差で計画されている津島屋八丁目交差点を見学した。暫定2車線の交通量では

平面交差点で交通処理が可能であり、実際の設計では右折・左折・直進の交通量を設定し、信号の時間や車線数、赤信号で停止する長さ等を検討し、渋滞しないよう計画していることを説明した。

生徒からは「交通量はどのように予測するのか」といった質問も受けた。



平面交差点見学（左岸）

⑦擁壁の計画説明

従来型のブロック積、プレキャストL型のほか、補強土壁や軽量盛土の見学を行った。擁壁には様々な形式があり、設置場所毎の擁壁高さ、地盤、施工条件等に応じて最適な形式を選定する。既設の地下埋設管への影響を軽減するため、発泡スチロール（EPS工法）と気泡混合軽量土（FCB工法）を採用している区間があることなどを説明した。



擁壁・軽量盛土見学（右岸）

5) 座学の概要

現場見学後、学校へ戻り、以下の説明を行った。

- ・ 見学した構造物等を平面図上で確認
- ・ 路線選定（路線通過位置）の考え方
- ・ 道路の種別と幾何構造
- ・ 縦平面線形、交差点、構造物の設計の考え方
- ・ ござれや阿賀橋上部工架設方法（動画）
- ・ 建設コンサルタンツ協会北陸支部PR動画



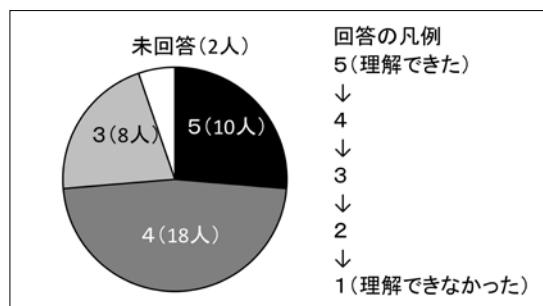
座学風景（新潟工業高等学校）

（４）出前講座後のアンケート調査概要

出前講座の有効性を把握するとともに、今後の参考とするため、出前講座修了後にアンケート調査を行った。概要は、以下のとおり。

問１．本日の授業では、計画の考え方や道路構造を理解できましたか。（回答は５段階評価）

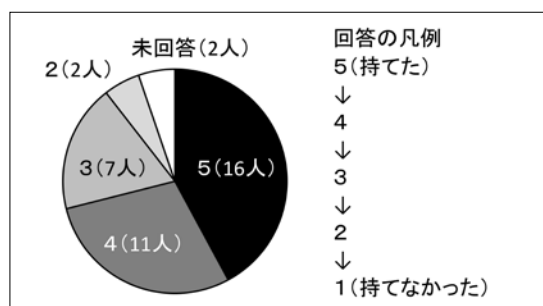
28名（74％）が４～５の評価となっている。高校生にとって、普段通る道路を「道路設計演習」として注意して見るということは、机上の学習にも増して土木設計を理解することができ、有効であったと思われる。



問２．道路設計に興味・関心は持てましたか。

（回答は５段階評価）

27名（71％）が４～５の評価となっている。完成（開通）している道路について、設計者の視点から具体的に聞きすることは、授業を受けている高校生には興味深かったものと思われる。



問３．本日の授業全体を通して感想をお書き下さい。

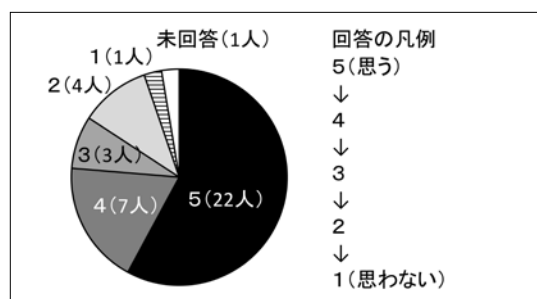
机上での２次元的な説明だけでなく、現場で三次元的に完成・開通したものを説明したことにより、「良かった」声が多かった。主なものは以下のとおりである。

- ・ こうやって自分たちで現場を見に行くことによって、どこがどうなっているというのが分かり興味を持ちやすいなと思った。設計図を見ると複雑に書いてあって見づらいなと思ったけど、それぞれ細かくどういう風にするかがあって、大変だなと感じました。
- ・ 橋一つかけるのに大変な時間と労力がかかることを改めて知りました。建設コンサルタントについて良く分かりました。設計だけだと思っていたのですが、ほかにも色々なことをしているんだと分かった。
- ・ 橋は大きいものなので、それが崩れないように計算して作ったり、地下にある管を傷つけないために発砲スチロールを使っていることがすごいと思った。

問４．土木に関する職業に就職したいと思いますか。

（回答は５段階評価）

29名（76％）が４～５の評価となっている。



問５．土木に就職したい理由は何ですか。

土木関係の就職希望が高い生徒の主な回答は、以下のとおりである。

- ・ 自分が住んでいく町を住みやすいものにしたいから。
- ・ 人の流れを自分が作ったり、土木はとても重要だし、とても興味があるから。また、とても楽しそうだから。
- ・ 自分の作ったものが地図に載るような大きな仕事をしてみたい。
- ・ 自分が住んでいる地域をよりよいものにしたいからです。
- ・ 道や橋、トンネルなどの人の役に立つ大きい建物を作ってみたいから。
- ・ やりがいがありそう。

3. おわりに

おわりに、本出前講座においてご説明頂いた国土交通省新潟国道事務所、また出前講座及び訪問・説明会等にご理解・ご協力を頂いた新潟工業高等学校先生方に御礼を申し上げます。

平成28年度「小学生のための出前講座」 新潟市立結小学校

〈広報部会〉

小学校における出前講座

平成28年11月8日に、当協会に依頼がありました新潟市立結小学校にて、今回初めて出前講座を実施致しました。

現在、小学校では「総合学習」として、小学校の目の前を流れる「能代川」の歴史や環境といった学習を継続的に行っているところです。

これまでも水質に関する実習はあったようですが、内容が難しすぎるとの御意見もあり、中学年向けの解りやすい内容で提案、実施させて頂きました。

なお、講演対象者は、4年生4クラスの約120名、スタッフは当協会の建設環境委員3名、広報委員3名の計6名で実施しました。

出前講座の概要

はじめに、建設コンサルタントってなに?として、児童に建コンPR動画「教えて!建コンさん」を見て貰い、その後、出前講座を開始しました。

出前講座の内容は、「能代川を題材とした『水質』の話」とし、2部構成で行いました。

前半のテーマは、「『水がきれい』って『なに?』」と題した講義、後半のテーマは、「水の汚れを調べてみよう!」と題した実験を行いました。



前半「『水がきれい』って『なに?』」

小学校に密接した「能代川」の説明から始まり、川の水がどの様にして汚くなるのか、「川のしくみ」として講義を行いました。

水の循環などについて分かりやすく説明し、特に川の

自浄作用の話については、既に行っていた下水処理場の話と重ね、理解を深めていたようでした。

また、講師からの「ラーメンのスープをきれいにする為にはお風呂何杯分の水が必要でしょうか?」とのクイズに、13杯もの水が必要と解ると、驚きの声が発せられていました。

最後に、川（水）はもとより、空気や山、森などの自然はとても大切な「環境」であり、その環境を守る事は地球を守ることにもつながっている事を学んで貰いました。



後半「水の汚れを調べてみよう!」

各クラス5名の代表を選出して貰い、COD（化学的酸素要求量）をはかる実験を行いました。

実験には見た目が変わらない3種類の水を用意し、各自好きな水を選んで貰いました。

その後、パックテストを用い、水質の簡易調査を行いました。実験が始まると、代表以外の児童も参加するほどの盛況ぶりで、パックテストの色が変わると、「もっと振ると、もっと色が変わるのかな?」と興味を示していました。



出前講座講師の感想

小学校4年生は「中学年」に該当し、以前実施した小学校5年生（高学年）とは異なると事前に聞いていたので、できる限り平易な言葉と説明方法を検討して講義に臨みました。感想文を読むかぎり、私として伝えたいことが少しは受け取ってもらったように思います。建コンさんのDVDと合わせて建設コンサルタントの使命が伝わったのではないかと思います。

（建設環境委員長：佐藤 朗）

休み時間にバックテストを見に来るような積極的な児童が多く圧倒されました。今回は準備不足もあり、事前に各講師との打合せもできなかったため、ぶっつけ本番となり、バックテストの使い方と実験結果の見方をうまく伝えられなかったように感じました。しかし、児童の感想文を読みますと、実験を面白いと感じてもらえたようなので胸をなでおろしています。

（建設環境委員：藤本 隆則）

広報部会より

初めて耳にする「建設コンサルタント」という職業、その仕事の内容について少しでも興味を持って貰い、遠くない将来、一緒に仕事ができる事を期待しております。最後に今回の出前講座開催にあたり、結小学校の児童、先生皆様に感謝し、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、結小学校の出前講座対象児童全員より、感想文を頂いております。本来であれば全員の感想文を掲載したいところですが、ページの都合上、各組代表1名の感想文を紹介させていただきます。

4年1組 代表

このあいだは、川や水についてたくさんのお話を教えて頂きありがとうございました。

教えて下さったおかげで、水についての事がよく分かりました。例えば「私たちは川で多くの人と繋がっている」や「私たちが川を汚すとたくさんの人たちが困る」といった事などの大切な事を知れました。

私はこれから自然の為に自分が出来る事をやっていきたいと思いました。

今回は本当にありがとうございました。

4年2組 代表

この前は川の事や、なぜ水が汚れるかなど教えてくれてありがとうございました。

クイズや実験などで水の事がよく分かりました。

水が汚れると命に関わったり、食べ物、暮らしに関わったりすると怖いと思います。

川の下流の方が住んでいる人が多い事も初めて知りました。橋や町の設計の事も教えて貰ってうれしかったです。

4年3組 代表

能代川について教えて下さりありがとうございました。

能代川の水はどの様にしてきれいになるか、また水の行方などがすごく分かりました。水はきれいに使わないと食べ物などがなくなってしまう事が分かって水を大切に使うと思いました。実験などもすごく面白かったです。ありがとうございました。

4年4組 代表

先日は私たちに「水がきれいって何？」というお話を頂きありがとうございました。

一番びっくりした事は、能代川は五泉の方の“宝蔵山”から流れてくる事です。どこから流れてきているか不思議だったので、分かって良かったです。

もう一つびっくりしたのは、川の水が繰り返し使われているという事です。この事には驚きでした。

「川は自分で自分をきれいにする仕組みがある」などのいろいろなお話を聞けて良かったです。ありがとうございました。

平成28年度 北陸支部防災訓練の結果

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〈災害対策部会・総括部会〉

北陸支部では、「防災の日」である9月1日に、午前は北陸支部の防災訓練、午後は本部の防災演習を実施した。午後の本部防災演習では北陸支部に災害対策現地本部を設置して、本部、各支部との連絡・伝達網等のチェックを主眼として取り組んだ。

ここでは、午前に実施した北陸支部の防災訓練を中心に整理するものとする。

1. 北陸支部の防災訓練について

新潟地区、富山地区、石川地区の3地区でそれぞれ実施。各地区では、初動時の情報伝達が適切に実施できるかを検証することを目的とし、新潟地区では関係機関との連携も加えて取り組んだ。

日時：平成28年9月1日（木） 8：40～11：50

場所：3地区でそれぞれ実施（新潟地区は北陸支部事務局、富山地区は富山地区事務所、石川地区は石川地区事務所で実施）

新潟地区参加者：

寺本支部長、中俣副支部長、高田運営委員長、高橋技術総括指揮者、木村副責任者、青木総括部会長、佐藤総括部会員、西潟総括部会員、清原総括部会員、高野総括部会員、佐々木広報部会長、浜辺広報委員、今野広報委員



訓練の様子

（1）プログラムと訓練のポイント

新潟地区では、他地区と異なる関係機関との連携も行っている。そこで、富山・石川地区の取り組みを包括できる新潟地区の内容を以下に示す（下記プロセスのうち、破線箇所は富山・石川地区は無し）。また、想定した地震の規模は、新潟県南西沖でM7.7の地震が発生し、最大震度は6弱が上越市、5強が新潟市、富山市等で観測された前提で取り組んだ。

- （6：00 新潟県南西沖でM7.7の地震発生）
- 8：40 北陸地整から技術総括指揮者に支援要請が届く。
（電話）
技術総括指揮者・総括部会長で対応確認
- 8：45 支部長に、北陸支部への参集の必要性について確認・要請先に内容確認のために向かわせることを報告
・要請先（北陸地整）へ3名出向く
・調査内容を把握し、現地本部へ向かう
- 8：50 関係者への参集連絡
- 9：30 北陸支部にて現地本部設置に関する協議
北陸地整からの情報を持ち帰り、その内容を報告
- 9：40 北陸支部にて「災害対策現地本部」を設置
①関係機関へのメールと電話による連絡
②支部会員会社への災害対策現地本部設置のお知らせと被災対応依頼の可否についてメール及びFAXにて連絡（文末の様式を参照下さい。）
- 10：40 支部長に1時間以内の返信状況を報告
- 11：40 支部長に2時間以内の返信状況を報告
- 【災害発生より90日経過を想定 平成28年12月1日】
- 11：50 災害対策新潟現地本部の解散（支部訓練の終了）
・関係機関へのメール・電話による連絡

【訓練のポイント】

- ①北陸地整企画部防災課に出向き、打合せを行って被災調査の場所・ボリュームを把握する。
- ②60分経過時に確認がとれなければ、電話で連絡内容を把握しているかを確認する（多重的な連絡手段）。
- ③災害対策現地本部設置のお知らせと応援要請確認書の体裁を分かりやすく変更。

※台風10号の影響で①における打合せは出来なかった。

(2) 訓練の結果

1) 返信状況について

会員会社からの返信は、1時間以内での回答を求めて実施した。

	対象会社	返信時間別の状況			合計
		1時間以内	1時間を超え 1.5時間以内	1.5時間を超え 2時間以内	
新潟地区	42	28	11	2	41
富山地区	11	10	1	0	11
石川地区	8	7	1	0	8
合計	61	45	13	2	60

74%

98%

※平成26年は、60社中、1時間以内返信は57社（95%）、
2時間以内返信は計60社（100%）。

※平成27年は、62社中、1時間以内返信は39社（63%）、
2時間以内返信は計47社（76%）という結果。

【メール・FAX別の返信状況について】

[合計] メール返信：31社 FAX 返信：29社

※2時間を超えて連絡が届いた1社はFAXであった。

[内訳]

・新潟地区はメールとFAXはほぼ同程度の利用状況であった。（下表を参照）

	1時間以内	1時間を超え 2時間以内	合計
メール	18	1	19
FAX	10	12	22
合計	28	13	41

- ・富山はFAXによる回答（2社/11社）が少なかった。
- ・石川はFAXによる回答（5社/8社）の方が多く、回答時間も早かった。

2) 支部訓練で気がついた点など

①新潟地区

- ・災害対策新潟現地本部の設置に関し、新潟県にメールと電話で連絡。新潟県に電話にて設置連絡した際、「メールが届いていない」とのことであったが、県のPCの中の別フォルダに格納されていたという報告があった。

- ・支部会員会社に現地本部設置と応援要請の対応可否についてメールで連絡した際、BCCで発信するべきところをCCで発信してしまった。（送信先からのクレームあり）
- ・ウイルス感染中のため、メール受信ができない会社があった。

【1時間経過で連絡が届かなかった会社の理由等について】

- ・FAXで連絡したい会社があったが、支部事務局のFAXが混んでおり発信することができなかった。そのため、やむを得ず、時間が経ってからメールで送信した会社があった。
- ・北陸支部では、急な応援要請等を含めて災害関係の連絡窓口となる災害担当責任者（正・副）を置いているが、この正・副2人とも外出中であった。そのため、連絡には気が付いた職員はいたが、対応が分からずそのままにしておいた。
- ・正・副担当者は、2人とも不在であった。そのため、FAXは東京本社に転送され、そのままになっていたと思われる。
- ・ウイルス感染中のため、メール受信ができない会社があった。加えて、事務局から送信したFAX番号が間違っていた。途中で気が付き、FAXを送り直して対応した。

②富山地区

- ・FAX送信は、10社一斉送信を行ったが、10社送信に15分を要した。その間、話し中となるため、それ以外の利用が出来なくなることから、複数のFAXを使用するなど工夫が必要。
- ・送信文に社名・返信者を記載していない会社があった。
- ・送信先が文面・メールに記載してあるにもかかわらず、建コン北陸支部現地本部へ送信した会社があった。
- ・1時間経過しても返信がないため担当者に電話をしたところ「メールもFAXも見えていない」とすこし怒り気味の返答があった。このことから、当該会社への周知や担当者の変更などの働きかけが必要と感じた。

③石川地区

- ・FAXは、受信側がコピー機との併用のため、回答書が他の資料に紛れてしまい、60分以内に回答書が届いていたにもかかわらず、確認できなかった。
- ・正・副の両責任者から回答書が届いたうえ、対応可能パーティー数も異なる報告が数社あった。

2. 本部演習について

本部演習を通じて気が付いた点等を以下に示す。

[第1ステージ]

- ・災害対策本部からA-2様式が届くところ、間違った様式が届いた(A-4様式)。(メール、FAXともに間違っ
- て届いた)
- ・災害対策本部からの連絡は予定時間よりも早かった。
- ・災害対策支部設置報告に関し、四国支部からメールが届いたものの、C-2様式が添付されていなかったの
- で、その旨を四国支部にメールで連絡した。
- ・近畿支部と中部支部からC-2様式が届いていなかった
- ので、着信確認を行った。(その後、中部支部はFAXのみ届いた)

[第3ステージ]

- ・C-3の受信完了時間は14:28(14:20の予定)であ
- った。

[第4ステージ]

- ・演習終了宣言のFAXが本部から届かなかった。



訓練の様子

3. まとめ

(1) 北陸支部訓練について

- ・支部事務局には、9時30分までに参集するのに対して9時15分には参集が完了した。速やかな対応が図られた。
- ・1時間以内返信率は、昨年比べて向上した。その要因は富山地区、石川地区の返信率が大きく向上したことによる。
- ・新潟地区ではパスワード付きのメール返信が減った(3件から1件)ため、添付ファイル開封作業は比較的容易に行えた。
- ・年度当初に、災害担当責任者(正)、(副)を確認しているが、当該者が忘れていたりしている。そのため、協会支部だけでなく、各社でも忘れないように見える化する取り組みが必要と思われる。

(2) 本部演習について

- ・FAX番号は演習開始以前から、北陸支部から本部を通じて事前確認していたにも関わらず、FAX機に届かない事態が発生した。(本部FAX機)
→第4ステージ開始前に災害対策本部から連絡あり(本部は未確認のまま実施したと思われる)
- ・今年度の訓練は、開催まで期間がない中、様式等の変更や演習の方向性が分からなくなるような連絡等があった。来年度は、改めて、取り組む際の目的や本部と支部でどのような資料を準備するのかなどを明確にして取り組む必要がある。

(3) その他

- ・今回の反省を踏まえて今後に生かす。
- ・北陸支部訓練では、台風の影響により、北陸地方整備局と連携した訓練を行うことが出来なくなった。(新潟県との連携は実施)。代わりに、会員会社へ要請内容を伝達する取り組みを実施したが、今後も、関係機関との積極的な連携を行いながら、現実的な取り組みに繋がるような訓練を行う必要がある。



会員会社への伝達

- ・昼食では、災害時に備えた非常食(レトルト食品)を食べて臨むなど、食事面での対応も体験した。



昼食の様子

- ・今回の訓練では、台風10号の影響から、北海道支部と東北支部は、大変な状況下での実施となり、当該支部では負担を強いられた状況であったことが推察される。(北海道支部はやむを得ず不参加であった)このような中にも関わらず対応していただいたことに感謝する次第であった。

〔参考〕支部会員会社に連絡した様式

災害対策現地本部設置のお知らせと被災対応依頼をセットで記した様式

様式-3

建コン協北陸支部 防災演習(訓練)です

【送付日時 平成 28 年 9 月 1 日 9 時 40 分】

緊急
要請

(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部 災害対策 新潟 現地本部

災害対策 新潟 現地本部設置と被災調査派遣依頼の対応可否確認について

災害担当責任者(正・副)殿

災害対策新潟現地本部長 寺本 邦一

9月1日に発生した「新潟県南西沖地震」を受け、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部は

災害対策 新潟 現地本部を設置しました。

これに伴い、北陸支部が締結している災害協定に基づき被災状況調査等の要請に対応すべく、会員各社の対応可能な人員について報告いただきたく、連絡しております。

以下に必要事項を記入の上、**1時間以内にE-mail又はFAXで返信**して下さい。

なお、E-mailで返信する場合は**件名には必ず以下の通り記載するとともに、末尾にはカッコ書きで社名を記載**のうえ連絡下さい。

件名の記載) 【建コン支部演習】対応可能人員の報告(〇〇〇会社)

-----< 対応の可否にかかわらず、返信厳守をお願いいたします >-----

FAXの場合は送信書なしで返信下さい。

返 信 書	会 社 名 :	TEL :
	返信者名 :	
	(携帯電話番号 :	E-mail :
※ 災害担当責任者の正または副からの返信を基本とします。やむを得ず、代替者となる場合は急な応援要請等において窓口対応ができる方をお願いします。また、その際はカッコ内もご記載下さい。		

応援要請の対応可否について、「可能」「不可能」「検討中」の3種類のうち該当するものに○をつけて下さい。「可能」の場合は分野ごとに派遣可能パーティー数を記載下さい。

可 能	不 可 能	検 討 中※	※[検討中]で返信する場合、その後結果を追記の上、遅滞無く再度の返信をお願いします。			
単位：パーティー						
分 野	道路	橋梁	河川	砂防	海岸	その他
派遣可能パーティー数 1パーティー3人とし、可能 パーティー数を記載下さい。						

発信者：(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部 災害対策新潟現地本部 技術総括指揮者 電 話：025-282-3370	返信先 [E-mailの場合] hrinfo@hr.jcca.or.jp [FAXの場合] 025-282-3371
---	---

※メールアドレスは常時利用しているアドレスと異なりますので十分注意して下さい。

1. はじめに

平成28年9月30日（金）、新潟県上越市においてNEXCO東日本が進めている上信越自動車道4車線化工事の現場を見学した。14社から30名の参加であった。

上信越自動車道は群馬県の藤岡ジャンクションから長野県長野市を経て新潟県の上越ジャンクションに至る204.3kmの高速自動車国道であり、この事業の対象区間は長野県上水内郡の信濃町インターチェンジから新潟県上越市の上越ジャンクションまでの延長37.5kmである。

豪雪と地震に強い高速道路を目指しており、平成30年度の完成に向けて工事が進められている。

事業概要を以下に示す。

- ・事業名：上信越自動車道4車線化事業
- ・路線名：関東自動車道上越線
- ・区間：信濃町IC（長野県）～上越JCT（新潟県）
- ・延長：37.5km
- ・車線数：4車線
- ・設計速度：80km（信濃町IC～中郷IC）
100km（中郷IC～上越IC）
- ・道路幅員：20.5m（信濃町IC～中郷IC）
23.5m（中郷IC～上越IC）
- ・完成目標：平成30年度
- ・事業費：486億円

2. 見学行程

前日の大雨が嘘のような初秋の快晴、まさに日本晴れとなり最高の現場見学日和となった。道の駅「あらい」から見学がスタートした。見学の行程を以下に示す。

- 13:20 道の駅「あらい」集合・出発
- 13:40～14:00 五日市工事（地すべり対策工）
- 14:20～14:40 宮内トンネル（トンネル覆工）
- 14:45～15:00 雪森橋（PC上部工）
- 15:40～16:00 滝寺第一橋（鋼上部工）
- 16:40 道の駅「あらい」解散

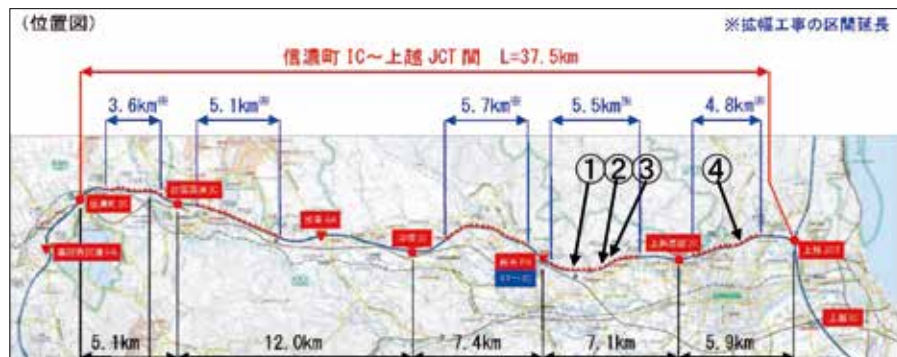
3. 見学した工事の概要

今回の見学の対象となった工事は、大規模切土工事、トンネル覆工工事、PC上部工架設工事、鋼上部工架設工事である。見学した施設の概要を紹介する。

3-1 五日市工事（地すべり対策工）

当初、延長200mのトンネルで計画されていたが、地すべり対策が必要となり切土計画に変更された。平成11年10月の供用開始から広範囲にわたり法面にクラックが発生したため、平成15年に切土勾配を開通当初の1:1.5から1:2.5に切りなおした。

その後も変状がみられたため地すべり対策として、浅層



（拡幅工事延長の内訳）		（単位：km）			
区 間	区間延長	拡幅工事 区間延長	土工	橋梁	トンネル
信濃町 IC～上越 JCT	37.5	24.7	19.5	3.1	2.1
比率（%）	—	100%	78.9%	12.6%	8.5%

4車線化事業の路線概要

見学した工事と内容

- ①五日市工事（地すべり対策工）
- ②宮内トンネル（トンネル覆工）
- ③雪森橋（PC 上部工架設）
- ④滝寺第一橋（鋼上部工架設）

部の地すべり土塊を1:3.5に切りなおし、集水井、水抜きボーリング、大型かご砕工、EPS軽量盛土等の対策工を実施している。工事延長は1.21km、土工量は13万㎡に及ぶ。平成29年10月の完成を目指している。動態観測を行っており、変位測定は毎日、傾斜計は週に一度観測している。



五日市工事現場



五日市工事の説明 (NEXCO東日本金澤氏)

3-2 宮内トンネル (トンネル覆工)

トンネルの延長は371m、工期は平成30年5月である。今年の8月26日に貫通したばかりであり、インバートコンクリート打設工事中であった。



宮内トンネル坑内 (インバート工事)

3-3 雪森橋 (PC上部工)

橋長は89.5m、橋梁形式はPRC2径間連続ラーメン箱桁橋である。工期は平成29年2月。塩害対策としてエポキシ樹脂塗装鉄筋を使用している。また、急速施工とす

るため橋台パラペットを先打ちし、ボックス内で緊張している。張出し架設移動作業車の解体、ゴム支承工の作業中であった。



雪森橋張出し架設 (移動作業車解体中)

3-4 滝寺第一橋 (鋼上部工)

橋長は137m、橋梁形式は鋼3径間連続ラーメン2主鈑桁橋である。送り出し架設であり、最大支間は52mと長いので仮設桁に鈑桁を継ぎ足している。エンドレスジャッキの使用により施工速度を1.5倍 (30m/日) に上げている。



滝寺第一橋 (送り出し架設)

4. おわりに

見学により、豪雪と地震に強い高速道路を早期に開通するための様々な工夫、様々な取り組みを知ることができた。

NEXCO東日本新潟支社信越工事事務所工務課の金澤様には、事業概要、主要工事の資料をもとに丁寧に説明していただきました。心から感謝の意を表します。



滝寺第一橋のP2橋脚前での集合写真

平成28年度 まちづくりセミナー研修報告 ～宇都宮市の都市計画～

〈都市計画委員会〉

平成28年9月27日(水)・28日(木)の2日間、建設コンサルタントとしての技術を高めることを目的に「まちづくりセミナー研修」を開催いたしました。

今回は、LRTの導入や自転車のまち、更に宇都宮ブランド戦略など、ソフト・ハード面でまちづくりに取り組まれている宇都宮市において、「公共交通ネットワークとまちづくり」を主要テーマとして行いました。

参加者は24名で、うち10名は関東支部の会員の皆様にご参加を頂きました。この他、宇都宮市の多くの技術者の皆様からも積極的なご参加を頂き、意義のある研修・現地視察・ワークショップが繰り広げられました。

2日間のプログラムは以下のとおりです。

◆9月27日(水) 研修会

- 13:30 研修会(宇都宮市の都市計画について)
場所:宇都宮市上下水道局 5階会議室
16:00 質疑応答、現地視察について
17:00 終了
18:30 意見交換会(懇親会)

◆9月28日(木) 現地視察・ワークショップ

- 8:45 現地視察
宇都宮駅から市役所周辺の公共交通とまちづくり
11:00 ワークショップ
場所:宇都宮市役所 B1階会議室
12:00 終了

以降に、主な内容を紹介いたします。

1. 研修会

司会進行:宇都宮市建設部 高橋技術監理課長

1.1 北陸におけるまちづくりの取り組み

講師:建コン北陸支部 埴都市計画委員

金沢市における「1. 集約型都市形成計画(案)」「2. 自転車利用環境向上に向けた取り組み」「3. 公共レンタルサイクル」の取り組みを事例紹介しました。

1.2 宇都宮市の都市計画

(1) 都市計画の概要

講師:都市計画課都市計画G 薄久保技師

「1. 宇都宮市の概要」「2. ネットワーク型コンパクトシティ」「3. 都市計画マスタープラン」「4. 土地利用」について説明して頂きました。

(2) 立地適正化計画等の検討状況

講師:市街地整備課企画G 朝日主任

「1. 計画の位置づけ」「2. 市街地調整区域の取り組み」「3. 都市機能誘導に関する事項」「4. 居住誘導に関する事項」「5. 誘導支援策の検討状況」「6. 今後の取り組み」について説明して頂きました。

(3) 公共交通の現状・課題と取り組み

講師:交通政策課交通計画G 町田技師

「1. 交通の現状と課題」「2. 宇都宮市が目指す将来の姿」「3. 公共交通の充実・強化に向けた取り組み」「4. 今後の取り組み」について説明して頂きました。

(4) LRTとまちづくり

講師:LRT整備室軌道G 酒井主任技師

「1. LRT事業の概要」「2. 導入ルート」「3. LRTの関連施設」「4. LRTと他の公共交通との連携に向けた主な取り組み」「5. LRTの導入イメージ」について説明して頂きました。

(5) 宇都宮市自転車のまち推進計画

講師:道路建設課サイクルシティ推進G 平原主任主事

「1. 宇都宮市の自転車を取り巻く環境」「2. 自転車のまち推進計画の概要」「3. 5つの柱に基づく事業展開」「4. 計画の推進に向けて」について説明して頂きました。



研修会の状況

2. 現地視察

主な視察箇所について紹介します。

2.1 宇都宮駅西口周辺市街地再開発事業

昭和60年「西口地区再開発基本計画」策定を経て、5地区で再開発事業が進められました。現在4地区（再開発ビル）で事業が完了しており、駅前広場を含む「宇都宮駅西地区」が事業検討地区として残っています。バス乗り場の分かり易さや歩行者動線の安全確保、看板等による街並み景観に課題を抱えているようです。また、駅前で大型スポーツ店の出店計画もあり、これと一体となった計画策定を考えているとのことでした。



駅西口周辺の視察の状況

2.2 LRTルート

LRT事業は、全体計画約18kmのうち、宇都宮駅東側～芳賀・高根沢工業団地付近（JR東側地区）の約15kmが優先整備区間となっていますが、研修日の9月27日（水）にこの区間が事業認可を受けました。

現地視察では、宇都宮駅東口において、ルートや構造について説明を受けました。

事業方式は、施設の整備・保有を公共が担い、事業運営を別の主体が行う「公設型上下分離方式」となるようです。また、JR西側地区への延伸に際しては、JR線をオーバー、新幹線をアンダーでの横断を検討しているとのことでした。



LRTルート視察の状況

2.3 宮サイクルステーション、ジャパンカップ

「宇都宮自転車のまち推進計画」の一環として、スポーツバイクに特化した施策を展開する宮サイクルステーションが設置されています。ロードレースの地元プロチームとも連携して環境づくりが展開されています。また、宇都宮市ではジャパンカップサイクリングロードレースを開催しており、プロスポーツを積極的に活用し、普及や広域からの恒常的な誘客に取り組まれています。



宮サイクルステーション

2.4 自転車走行空間整備

自転車専用通行帯や矢羽根による自転車通行空間の整備例を紹介して頂きました。自転車専用通行帯の設置区間が多く、積極性の高さが伺われました。

3. ワークショップ

進行：建コン北陸支部 埴都市計画委員

2日の研修会、現地視察を経て、4班に分かれてテーブル討議を行いました。宇都宮市役所の技術者の方からも各テーブルにご参加頂き進めました。日程の都合上、限られた時間のなかでの作業となりましたので、「良いところ」「気になるところ」の2点について、2枚の模造紙にとりまとめ、発表しました。



発表の様子

4. 講評

埴都市計画委員による発表に対する講評の後、宇都宮市都市整備部の飯塚次長から2日間の研修について総括して頂き、閉会となりました。



講評の様子

5. おわりに

今回の研修にあたりましては、宇都宮市役所様から積極的に受け入れて頂き、ワークショップにもご参加を頂きました。また、建コン関東支部の皆様にも開催にあたり多大なるご協力を頂きました。お陰様を持ちまして大変有意義な研修会とすることができました。

ご協力を頂きました皆様に感謝申し上げます。



参加者の集合写真

1. はじめに

(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部と北陸鋼橋技術研究会(SBR研究会)と共催で「橋梁技術講演会」を開催しました。SBR研究会は長井正嗣先生を座長として、産官学共同で北陸地方のエンジニアを中心に鋼橋の技術力向上を目的に発足した研究会です。

この「橋梁技術講演会」も平成20年から北陸支部と共催して開催しており、今回で10回目の節目を迎え、総勢162名と多数、ご参加頂きました。

今回は、海外での維持管理事例や国内のインフラストラクチャマネジメントと技術開発の貴重な講演を頂きましたのでご紹介します。

2. 講演プログラム

日時：平成28年9月16日(金) 13:30~16:40

場所：ガレッソホール(東横INN 新潟駅前4階)

共催：北陸鋼橋技術研究会(SBR研究会)

開会の挨拶では、寺本支部長が「我々は今後の橋梁技術発展に寄与するよう社会資本整備で最新技術を活用し、再考の社会資本を提供しなければいけない。橋梁の戦略的な維持管理を継続した適切な対応が求められている」などと呼びかけた。



開会の挨拶 支部長 寺本邦一氏

時刻	内容・演題	講師
13:30~13:35	開会の挨拶	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部 支部長 寺本邦一
13:35~14:10	橋の維持管理法の紹介 -海外事例-	北陸鋼橋技術研究会 代表 長岡技術科学大学 名誉教授 長井正嗣 埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤国際コース 教授 奥井義昭
14:10~15:10	ドイツの維持管理事情	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング 企画部 上席専門役 兼務 技術営業部 上席道路保全技術専門役 紺野 義仁
15:15~15:25	休憩	
15:25~16:25	インフラストラクチャマネジメントと 技術開発	横浜国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授 内閣府参与 総合科学技術イノベーション会議 SIPプログラムディレクター 併任 藤野 陽三
16:25~16:40	閉会の挨拶	北陸鋼橋技術研究会 副代表 長岡技術科学大学大学院 工学研究科 環境社会基盤工学専攻 教授 岩崎英治

3. 講演概要

3.1 「橋の維持管理法の紹介－海外事例－」

(1) ドイツライン川に架かる斜張橋 － Leverkusen の架け替え－



講師 長井正嗣氏

橋梁概要に示すドイツライン川にかかる斜張橋で1965年に開通した後、1973年（8年経過）に最初の鋼床版クラックが確認された。その後、2007年に中間対傾構部材のクラックが発見され、それ以後も多数のクラック発生の結果、現在では、3.5tまでの荷重制限を行いながら供用している。

【橋梁概要】

スパン：97+106+280+106+97 (m)

幅 員：37.8 (m)

開 通：1965年

交通量：120,000台/day

大型車：22,000台/day（大型車率：18.3%）

違反車：150台/day（推定）

このような状況のなかでドイツでは、橋梁架け替えの詳細設計を進めており、2017年を目標に6車線橋を2橋、総工事費600million€（780億円）をかけた架け替えを予定している。

変状の原因は、大型車交通量（貨物などの過積載車



両) の大幅の増加による“疲労”とされている。その背景として、安価に製造した東側ドイツの製品を西側に大量輸送しているユーロ圏の特徴が挙げられる。その大型車交通量増加は、1950年から2010年にかけて約62倍となっており、さらに2025年までには、2010年比で1.5倍の大型車両や重量車両の増加が予想されている。

これに関連して、ドイツでは既設橋梁を対象に「再計算プロジェクト」がスタートしており、大型化する交通荷重にどう対応できるか、安全性の検討を試みている。そのなかで、安全性評価の基盤技術を整理し、“より正しく劣化強度を知る努力・研究”や“より実体荷重を知る努力・研究”が必要と述べた。

(2) Load Rating による既設橋梁の評価



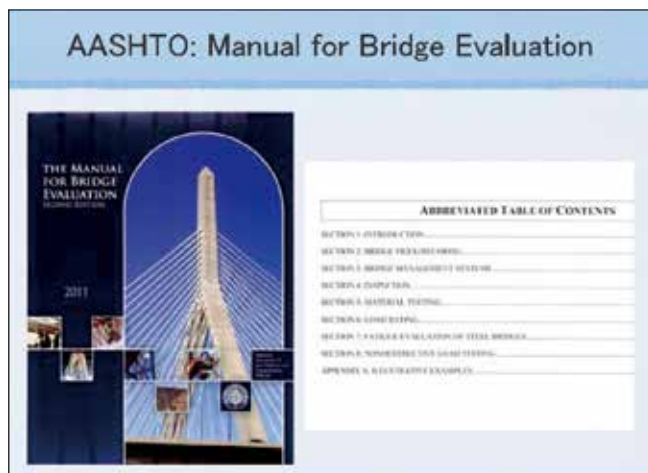
講師 奥井義昭氏

2007年8月に発生したアメリカ ミネソタ州の1967年に建設された橋梁の落橋事故など、点検していたにもかかわらず、既設橋の評価が適切にできていない事例が多くある。このように古い橋の安全性を評価することはむずかしいが、古い橋を将来にわたり使い続けるための最適な技術や手法は必ずあると述べた。

世界の動向では、アメリカ、カナダ、デンマーク、スイスの各国ですでに既設橋の耐力評価基準（Load Rating）が開発済みである。そのうちアメリカの既設橋の点検とLoad Ratingが紹介された。

まず、Load Ratingとは橋梁の現時点での活荷重耐力を解析などにより求めるプロセスとされており、総トン数のRating Factorで表されるものである。評価する際には、設計時や供用時などの2つのレベルで供用期間中の安全を確保するための検討を行い、評価するものである。わが国で今後、既設橋梁を使い続けるためには、次のような考え方が効果的と考える。アメリカの事例をもとに日本にあったLoad Ratingを行いながら5年毎の定期橋梁点検を行い、5年間を保障しながら限界状態設計による耐荷力評価を活用した「限界状態設計法+5年毎の

点検+Load Ratingの統合化」による維持管理が効率的と呼びかけた。



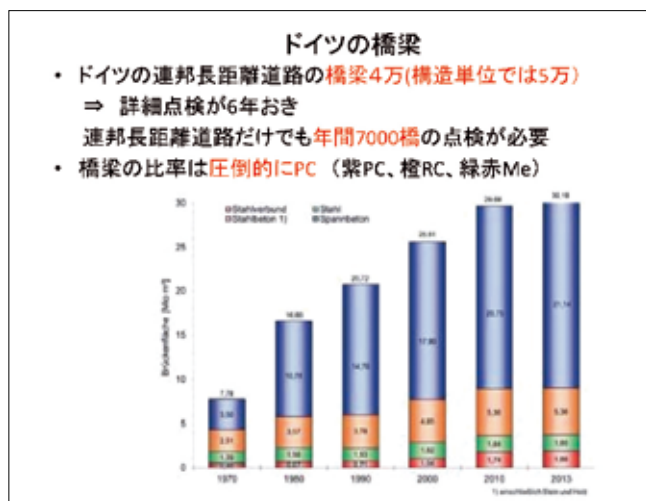
3.2 「ドイツの維持管理事情」

(1) ドイツ橋梁の現況



講師 紺野義仁氏

ドイツでは、およそ13,000kmの高速道路と40,000kmの連邦道路が存在しており、その中で高速道路橋梁施工年は1970年代が最多で、日本より10年早い。最も古い道路は1930年代の高速道路が現存している。このような状況で詳細点検は6年毎に実施しており、年間7,000橋の点



検が必要となっている。橋梁の種類は、圧倒的にPC橋が多い特徴がある。

(2) 構造物点検の取り組み

ドイツでは、設計・建設段階で点検のための工夫が配慮されている。その一例は、①桁内への出入りに配慮した開口部、②中空橋脚の高さ方向には5m毎に踊り場を設置、③内空高さは1.9m以上、3m以上は点検足場を設置、箱桁内の点検照明の設置、④点検アクセス階段や支承部の点検スペースなどが標準化されている。また、特殊な橋梁の点検ハンドブックもまとめられている。点検種別は中間点検と詳細点検の2種類があり、構造安定性 (S)、交通安全性 (V)、耐久性 (D) の要素を0～4の5段階で評価するとともに、約1,700事例の変状に従い評価している。さらにBMSによる点検報告書の書式や入力状況およびその活用では、構造グループ毎 (上部工や下部工など) の評価項目であるS、V、Dを定量的に評価し、これらを数値化することで橋梁損傷度の判定をしている。ちなみに何らかの対策が必要な橋梁は、全体の12.5%程度となっている。点検の資格制度では、2008年にドイツ診断士協会から技術者の教育と継続教育や資格の付与が行われており、現在1,500名が登録されている。

(3) 構造物の補修と改築の検討

Stufe I～IVまでの4段階で評価検討されており、Stufe Iでは建設年次や耐荷性に劣る仕様などから優先的に選定し、Stufe IIでは、経済性による調査とともに工事方法の決定を行う。経済性比較では、基準年の現在価値に換算して比較検討が実施されている。Stufe IIIおよびStufe IVでは、施工計画や建設法上の許可取得、工事の財源確保および実施といった流れで構造部の補修や改築の検討が行われている。

3.3 「インフラストラクチャマネジメントと技術開発」



講師 藤野陽三氏

増え続ける社会基盤ストックやGDPの伸び悩みの中、フロー経済からストック経済になっている。首都高などのインフラは、建設時から現在までに経年劣化はしていくものの交通量は大幅に増大しているが、今なお現役で供用している。日本には古いインフラが多数あり、その質はいろいろである。わが国の発展に貢献した先輩技術者の作品に敬意を払い、それをいかに守るか、グレードアップするが重要である。社会基盤マネジメントの考え方は“アセットマネジメント”、“リスクマネジメント”、“ストックマネジメント”の3要素からなっており、その中でも事故や災害などの経験、すなわちリスクマネジメントから学ぶことが多い。笹子トンネルの崩落や阪神淡路大震災などの甚大な被害経験を契機に点検の義務化や耐震補強対策の推進といったことに目覚めてきた。そのおかげで中越・中越沖地震や熊本地震での被害軽減・早期ルートの確保などの対応ができ、全国5,000億円の耐震補強費の効果があつた。また、アメリカ ニューヨーク市の橋守 ヤネフ博士の維持管理に対するアメリカの劣化や点検事例も紹介された。さらに、内閣府で進めている戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) のインフラ維持管理・更新・マネジメント技術での取り組みが紹介され、①RC床版の余寿命予測システム、②マルチコプターなどのロボット技術、③地中探査レーダを活用した走行型損傷検知技術などの開発や実装を目指している。このような技術の実装のためには、最先端技術を使いこなす必要があり、他分野の多くの人材の橋渡しとそれらを担う人材育成が必要不可欠である。これらから誰もが使いたくなる技術やシステムをFrugal (つましい、儉約な) に進めなければいけない。

また、国と地方自治体・大学との連携強化を図りながらアセットマネジメントの全国ネットワークの構築が重要である。まとめでは、エンジニアの思いが詰まった構造物に対してライフサイクルの中で計画、設計、施工・製作各段階の初期品質が重要となり、維持管理の際は、上述の3要素のツケが回らないよう、日ごろの維持管理からの知見を新設構造物に生かすことが大事であると締め括った。

4. おわりに

橋梁技術講演会開催にあたり、北陸地方整備局、新潟県、新潟市、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、建設業関係者ならびに建設コンサルタンツ協会から多数のご参加ありがとうございました。講演者への質疑も多数あり、活発な講演会となりました。

最後に、ご多忙の中、大変貴重な講演をして頂いた講師の方々に心より感謝申し上げます。



閉会の挨拶 岩崎英治氏



講演会状況 (総勢162名の参加)

平成28年度 橋梁現場見学会2 一般国道8号 歌高架橋上部工事

〈技術部会 橋梁委員会〉

1. はじめに

今年度2回目の橋梁現場見学会は、協会の総合的な技術力向上と見識を広めることを目的として、10月21日（金）に実施されました。



「高田河川国道事務所：糸魚川地区橋梁架け替えパンフレット」より

今回の見学会は、一般国道8号の歌高架橋（第1工区、第2工区、第3工区）上部工事の現場を訪問しました。

現場は北陸自動車道、現道、日本海ひすいラインが並行しており、制約が多い限られたヤードで、ガントリークレーン等を駆使して架設が行われています。

2. 歌高架橋架け替えの事業概要

高田河川国道事務所では、「管内橋梁維持管理計画策定委員会」の提言を受け、塩害による損傷が特に著しい糸魚川地区の9橋について事業化を行い、橋梁架け替え等の抜本対策を実施しており、歌高架橋については平成25年3月より架け替え工事が進められています。

路線名：国道8号

事業区間：上越市有間川～糸魚川市市振

延長 L=4.0km（H21・24年度事業化区間）

事業化年度：平成21年度 糸魚川地区橋梁架替

（筒石橋、能生大橋、両鬼橋、青梅跨線橋）

平成24年度 糸魚川地区橋梁架替Ⅱ

（有間川橋、弁天大橋、青梅川橋、歌高架橋、境川橋）

歌高架橋架替

道路規格：第3種第2級 設計速度60km/h

設計荷重：B活荷重

橋 長：L=676.0m（44.0+31.0x4+33.0x11+29.0x5）

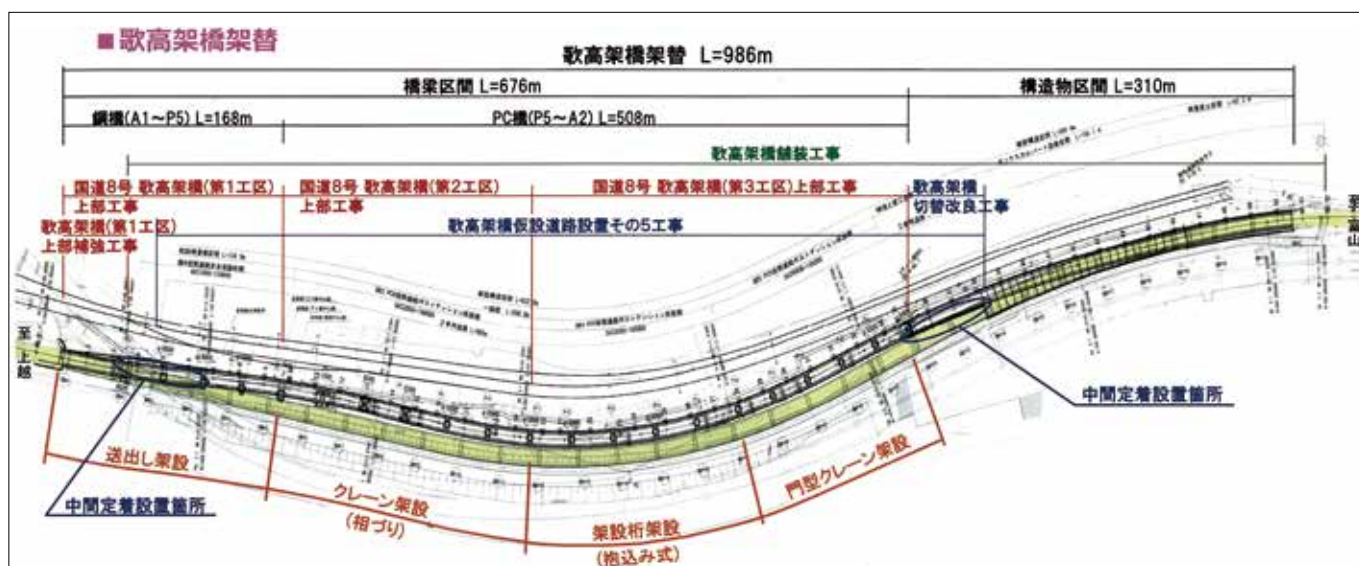
幅 員：総幅W=10.39m 有効幅員9.50m

形式：1径間単純非合成鈹桁橋（拡幅）

4径間連続非合成鈹桁橋

6径間連結ポストテンション床版橋

5径間連結ポストテンション床版橋2連



架設計画平面図

3. 工程

高架橋の終点部に集合し、現場作業ハウスで説明を受けた後、第3工区から第2工区、第1工区へと順次起点側へ現場見学を進めました。

13:00 全体説明

13:40 3工区 現場見学

14:20 2工区 現場見学

15:00 1工区 現場見学

16:00 解散

4. 全体説明

現場内の見学に先立ち、現場作業ハウス内で、高田河川国道事務所糸魚川国道維持出張所の勝俣専門官から糸魚川地区橋梁架替の事業概要と歌高架橋架替の全体説明を、極東興和(株)の森山所長(第2工区)、池田所長(第3工区)から上部工事の説明を受けました。



全体説明状況

5. 第3工区 現場見学

工程の関係でガントリークレーンによる架設は行われていませんでしたが、架設桁による架設(抱込み式)状況を見学することができました。



架設桁架設(3工区)の見学状況

6. 第2工区 現場見学

トラッククレーンの相吊りで架設している所を見学できました。限られたスペースでの施工について、近接構造物との離隔に関する質問が多く出ました。



クレーン架設(第2工区)の見学状況

7. 第1工区 現場見学

現道への摺り付け区間で、現橋の桁を撤去しながらの施工であり既設桁1列撤去のためのステージ等を、終点側の作業構台から見学しました。



第1工区の見学状況

8. おわりに

今回は施工条件や環境条件が非常に厳しい現場であり、架設工法や塩害対策に関して多くの質疑応答が行われ、大変有意義な見学会であったと感じました。

この見学会を行うに当たり、ご多忙の中ご協力を賜りました北陸地方整備局高田河川国道事務所糸魚川国道維持出張所、極東興和(株)、(株)横河ブリッジ、PC建協北陸支部の関係各位に心より感謝申し上げます。

お知らせ

白山地域における環境保全と災害対策に関する技術講演会 ～エコパークと崩壊地対策～

〈技術部会 河川及び砂防委員会・建設環境委員会〉

1. 技術講演会の概要

日時：平成28年12月7日（水） 13:00～17:00

場所：石川県女性センター（石川県金沢市三社町1-44） 4階コンベンション室

演題、講師：

講演1 「白山ユネスコエコパーク拡張登録と自然の魅力」

白山ユネスコエコパーク協議会 事務局員（コーディネーター） 中村 真介 氏

講演2 「手取川上流の土砂崩壊地の現状と対策」

近畿中国森林管理局石川森林管理署 署長 小林 伸一 氏

総括治山技術官 宮本 政澄 氏

2. はじめに

河川及び砂防委員会と建設環境委員会の合同で開催された今回の建設技術講演会では、白山を取り巻く地域にスポットを当て、上記2題の講演が行われました。

当日は風雨が激しく足元の悪い中にも関わらず、北陸の各地域から会員各社の参加を賜りました。両講演の後には活発な質疑や意見交換が行われ、4時間の有意義な報告会となりました。

それぞれの講演の内容は以下の通りです。



聴講者の様子

3. 講演内容

3.1 講演1

「白山ユネスコエコパーク拡張登録と自然の魅力」

1980年に世界ユネスコエコパークに登録され、2016年に範囲拡張された白山ユネスコエコパークの取り組みに関し紹介を頂きました。



講演1の様子

世界ユネスコエコパークとは、人と自然が上手に共生している国際的なモデル地域を指し、世界669の地域が登録されています。各地域では、住民の手によって自然を保護しながら、自然に対する調査研究を積極的に行い、地域の発展に自然を生かす暮らしが営まれています。

白山地域は、日本で最も南西に位置する高山地域であり、世界で最も赤道に近い豪雪地帯の一つです。しかしながら、この地域の大きな特徴は、白山がもともと持つ特異的な自然の魅力だけではなく、古くから自然と人とが共生してきたことにあります。山村の住民や白山信仰を通して関わる多くの人々が、白山の自然環境に適応した生活・文化を受け継ぎ、ユネスコエコパークの主目的である「自然を守る、知る、活用する」という機能が暮らしに根付いていることが高く評価されているのです。

また白山地域のさらなる発展を目指して、他の世界ユネスコエコパークと活発な情報交換が行われており、互いの課題や取り組みを学び合っています。今後は地域、行政、研究機関に加えて民間企業との連携も意識し、白山と共生する仕組みをさらによいものにしていくための活動が続けられています。

3.2 講演2

「手取川上流の土砂崩壊地の現状と対策」

2015年に発生した手取川上流部の山体斜面崩壊に対する防災対策と、崩壊現場の現状に関し説明を頂きました。

当初、山体の地層から流出した濁水が60km下流の河口にまで到達し、流域の住民の生活に影響を与える恐れがありました。このため崩壊地の復旧と崩壊範囲拡大防止の対策が早急に求められました。



講演2の様子

通常、このような土砂災害の現場では重機を活用して対策工を施しますが、本現場は山体の斜面に位置し道路がなく、アクセス手段はヘリコプターのみです。このため現地で一般的な対策を行うことが困難な中、対策を担当する林野庁の指揮のもと、主に次のような工夫で施工が行われています。

・航空浸食防止工

斜面に残る多量の土砂の流出を防ぐため、浸食防止剤をヘリコプターから斜面に散布します。

・袋型石詰土留め工

岩石を袋に詰めた資材をヘリコプターより投下し、砂防ダムの様に土砂の流出を防ぎます。

また、崩壊箇所周辺は白山国立公園の特別保護地区に指定されているため、復旧のための緑化対策も慎重に行わなければなりません。

・緑化工

直接植樹を行えないため、試験的に挿木や発根した種子を土壌等と混ぜたものをヘリコプターから散布します。外来性の植物の混入を防ぐため、現地の植生の挿木や種子を採取しています。

2015年度の施工とモニタリングの結果、一定程度の緑化工の効果が確認されている一方で、依然として土砂流出や崩壊箇所拡大の危険性に残っており、今後も継続して監視と対策を行う必要があります。また、今回崩壊した箇所に限らず、同様の土砂災害は頻繁に発生し得るため、地域全体で対応できる体制の整備が求められています。

4. 終わりに

今回の講演会では、白山地域における環境保全と防災の取り組みを分かり易く説明して頂きました。

いずれも人間が自然と関わるからこそ需要と価値がある活動であり、建設業界に携わる技術者の一つのモチベーションとして、自然環境と人間社会の上手な共生を意識したいと感じました。



会場の様子

北陸支部活動報告

平成28年10月2日

防災講演会 in 南砺市（協賛）

場 所／南砺市内

内 容／基調講演「最近の土砂災害の実態」

国土交通省

水管理・国土保全局砂防課

保全課長 今井 一之 氏

体験報告「平成20年7月南砺市豪雨災害時の対応」

南砺市役所 視聴政策部

活動報告1 富山県防災士会 事務局長

佐伯 邦夫 氏

活動報告2 立山砂防女性サロンの会

シニアアドバイザー

吉友 嘉久子 氏

平成28年10月3日・4日

GIS講習会

場 所／川崎市内

内 容／SIS初級編 参加者3名

SIS中級編 参加者4名

平成28年10月4日

大学等PR活動（説明会）

場 所／長岡高等専門学校

対応者／涌井河川及び砂防委員長、真嶋品質向上委員長

平成28年10月5日

平成28年度第2回新技術活用評価会議

場 所／北陸地方整備局

出席者／涌井河川及び砂防委員長

平成28年10月7日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／五泉市山王中学校

対応者／新郷 恭弘 氏

平成28年10月7日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）

派遣数／2名

平成28年10月7日

橋梁委員会現場見学会

場 所 富山県南砺市

内 容／利賀ダム 庄川橋梁、豆橋橋梁 等見学

参加者／14名

平成28年10月7日

第13回地盤調査法講習会（後援）

場 所／新潟市内

内 容／（1）ボーリング

（2）室内土質試験

（3）サウンディング

（4）物理探査（地中レーダー）

平成28年10月13日

土研新技術ショーケース2016 in 新潟（共催）

場 所／新潟市内

内 容／土木・景観技術 3題

北陸地方整備局の講演

「北陸地方整備局の最近の取り組み」

北陸地方整備局

地方事業評価管理官 高島 和夫 氏

特別講演

「災害と社会資本整備」

新潟大学名誉教授

放送大学 新潟学習センター所長

大川 秀雄 氏

維持管理技術 3題

防災・応急対策技術 4題

平成28年10月15日

新潟県立新潟工業高校生徒保護者との意見交換会

場 所／北陸地方整備局

内 容／生徒保護者9名との意見交換会

対応者／飯田 雅之 氏、山田 裕介 氏

平成28年10月15日

会誌「雪の音」Vol.128号発刊

担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成28年10月16日

第27回土木フェスティバル（後援）

場 所／国営越後丘陵公園

内 容／（1）屋外展示（緑の千畳敷）

土木・防災用機械の展示・体験・実演

（2）屋内展示（暖の館）

パネル・模型などの展示

（3）現場見学会

平成28年10月18日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県中越分科会

場 所／長岡国道事務所

出席者／高野総括部会員

平成28年10月18日

新潟県土木部との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／新潟県 美寺土木部長 他13名

北陸支部 中俣新潟地域委員長 他13名

平成28年10月19日

第28回建設技術報告会（実行委員会）

場 所／金沢市内

内 容／技術報告

基調講演

「ICT建機による建設現場の新しい生産性向上法」

コマツ執行役員スマートコントラクション推進本部長

兼 コマツレンタル株式会社代表取締役会長

四家 千佳史 氏

技術パネル等展示

平成28年10月20日
講師派遣
派遣先／富山県立大学
派遣数／3名

平成28年10月21日
新潟県立新潟工業高校出前講座
場 所／新潟国道事務所管内
内 容／見学 一般国道113号ござれや阿賀橋付近
(縦平面線形、平面・立体交差点、擁壁、
調整池、橋梁等)
座学 道路設計概論

平成28年10月21日
橋梁委員会現場見学会2
場 所／新潟県糸魚川市
内 容／一般国道8号 歌高架橋(第2・3工区)上部工
事現場
出席者／14名

平成28年10月21日
RCCM登録更新講習会
場 所／新潟市内
内 容／講和 (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事
技術課題と最近の動向
佐々木 葉 氏(早稲田大学教授)
建設コンサルタントの現状と課題
草柳 俊二 氏(高知工科大学名誉教授)

平成28年10月25日
第2回北陸橋梁保全会議(実行委員会主催)
場 所／新潟市内
内 容／基調講演
「道路構造物の経年劣化の現状と課題」
東京都市大学 学長 三木 千壽 氏
パネルディスカッション
「維持管理と人材育成」
長岡技術科学大学 名誉教授 丸山 久一 氏
ポスターセッション発表
報文発表 施工・維持管理 20報分
調査・研究 31報分
点検・設計 8報分
材料 1報分
技術展示(PRコーナー)

平成28年10月26日
ICT普及専門委員会講習会
場 所／新潟市内
内 容／「国土交通省におけるCIMおよびi-Construction
の取組み」
「建設コンサルタントによるCIMおよびi-Construction
等への対応」
「OCF活動紹介、関連ソフト紹介」
参加者／32名

平成28年10月26日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会
場 所／高田河川国道事務所
出席者／藤本建設環境委員

平成28年10月27日
第32回雪シンポジウム in 村上(後援)
場 所／村上市内
内 容／基調講演「世界に発信する 夏の冬季オリンピック」
講師 平野 英功 氏
(日本海スケートボード協会理事長)
パネルディスカッション
テーマ「魅力づくりによる戦略的地域活性化」

平成28年10月28日～29日
第15回北信越現地ワークショップ in 新潟(後援)
場 所／新潟市内
内 容／基調講演
「河道掘削を川の再生に活かす!」
～河道内陸域環境の分析・評価・予測方法を巡って～
講師 萱場 祐一 氏(国立研究開発法人土木研
究所 水環境研究グループ)
一般講演
「日本の水質環境50年を振り返る」
早川 典生 氏(長岡技術科学大学名誉教授)
「越後平野における生態系ネットワークの形成に向
けた取組み」
古山 利也(国土交通省北陸地方整備局)
「五十嵐川の災害復旧事業における多自然川づくり」
山本 雅彦 氏
(新潟県三条地域振興局地域整備部)
「鳥屋野潟の湖岸堤整備に向けた環境調査等事例」
古屋 友次郎 氏
(新潟県新潟地域振興局地域整備部)
「トキの餌場づくりの取組の評価と今後の方向性」
松尾 勝則 氏
(新潟県佐渡地域振興局地域整備部)
「里潟の利用に向けた新潟市の取組み」
小林 博隆 氏(新潟市環境部環境政策課)
「圃場整備地域における戦略的な生息地再生計画の
提案」
石間 妙子 氏(福岡県保健環境研究所)
「生物多様性・自然栽培の可能性」
宮尾 浩史 氏(宮尾農園代表)

平成28年10月31日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第4回幹事会
場 所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成28年11月1日
品質セミナー“エラー防止のために”(本部主催)
場 所／新潟市内
講 師 本部技術委員会照査特別WG委員
内 容／各セッションの調査・設計分野に現れるエラー事
例の紹介、技術的分析、並びに照査の具体的改善
について講義
参加者／国10名、県8名、政令市11名、会員94名、計123名

平成28年11月1日
独占禁止法等遵守に関する講習会（共催）
場 所／金沢市内
内 容／平成27年度独占禁止法等遵守に関する講習会
～設計、測量における著作権～
講師 ノースブルー国際特許事務所
弁理士・技術士（建設・総合技術監理）
甲斐 哲平 氏
出席者／全体52名 会員20名

平成28年11月1日～2日
第15回多自然川づくり北陸ブロック担当者会議（共催）
場 所／金沢市内
内 容／分科会 5事例
基調講演「気候変化下での河川流出の変化と
その河川環境への影響を考える」
講師 谷口 健司 氏（金沢大学准教授）
現地視察 直轄事業 手取川自然再生
補助事業 木場潟
出席者／全体74名 会員12名

平成28年11月2日
セメント系固化材の利活用セミナー（後援）
場 所／新潟市内
内 容／講演「大規模災害に対してセメント系固化材に
よる地盤改良が果たす役割」
講師 北詰 昌樹 氏（東京工業大学大学院 教授）
講演「セメント系固化材の概要と適用事例調査に
ついて」
講師（一社）セメント協会 震災調査WG
講演「セメント系固化処理工法の新しい改良形式
について」
講師 国立研究開発法人 港湾空港技術研究所
地盤研究領域 地盤改良研究チームリーダー
森川 嘉之 氏
講演「発生土や分別土の利用と地盤環境への影響」
講師 勝見 武 氏（京都大学大学院 教授）

平成28年11月8日
社会貢献活動出前講座
場 所／結小学校
出席者／佐藤建設環境委員長、若尾建設環境委員、
藤本建設環境委員、佐々木広報部会長、
高橋広報委員、浜辺広報委員

平成28年11月9日
新潟市との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／新潟市 大沢土木部長 他13名
北陸支部 中俣新潟地域委員長 他14名

平成28年11月11日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第3回協議会
場 所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長

平成28年11月11日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名

平成28年11月11日
第3回北信越事例発表会（後援）
場 所／富山市内
内 容／一般口頭発表
基調講演「中小河川の多自然川づくりと小さな
自然再生」
講師 岐阜大学流域圏科学研究センター
准教授 原田 守啓 氏
審査対象口頭発表

平成28年11月13日
大河津分水講演会2016－I（後援）
場 所／燕市内
内 容／「あらためて、横田切れを振り返る」
樋口 勲 氏（信濃川大河津資料館友の会理事）
「信濃川の洪水：江戸、明治期以来をたどり、将来
を考える」
早川 典生 氏（信濃川大河津資料館友の会理事長）
「関東・東北水害から新潟平野が教訓とすべき事」
安田 浩保 氏（新潟大学 災害・復興科学研究
所 複合災害科学部門 准教授）
「大河津分水路拡幅工事の概要」
南 健二 氏
（北陸地方整備局信濃川河川事務所計画課長）

平成28年11月14日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／1名

平成28年11月16日
北陸防災連絡会
場 所／新潟市内
出席者／中俣副支部長

平成28年11月16日
第10回設計業務品質確保に関する研究会
場 所／北陸地方整備局
出席者／渡邊技術部会長、神田道路委員長、
渡辺橋梁委員長、涌井河川及び砂防委員長、
真嶋品質向上委員長

平成28年11月16日
建設業界合同事業説明会
場 所／長岡技術科学大学
出席者／小見都市計画委員長

平成28年11月16日
Made in 新潟（土木・建築）新技術展示・発表会（共催）
場 所／新潟市内
内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成28年11月19日
講師派遣
派遣先／新潟大学農学部
派遣数／1名
内 容／「応用農力」講義

平成28年11月24日
富山県景観づくりフォーラム2016（後援）
場 所／富山市内
内 容／表彰式
講演「景観まちづくりのすすめ」
講師 東京工業大学 環境・社会理工学院
教授 中井 検裕 氏

平成28年11月28日
北陸土木コンクリート製品技術協会との意見交換会
場 所／新潟市内
出席者／北陸土木コンクリート製品技術協会 12名
（一社）建設コンサルタンツ協会 12名

平成28年12月1日～2日
平成28年度 河川技術現地検討会2（共催）
場 所／金沢市内
内 容／現地検討会 梯川旧堤撤去に関する現地調査、
状況確認
合同勉強会「梯川旧堤の物理探査結果及び阿賀野
川堤防調査結果報告について」
講師 国利研究開発法人土木研究所
主任研究員 石原 雅規 氏
「気候変化が洪水に及ぼす影響」
講師 金沢大学理工研究域 谷口 准教授

平成28年12月4日
大河津分水講演会2016－Ⅱ（後援）
場 所／新潟市内
内 容／「大洪水の危機性と大河津分水路工事の重要性」
福田 捷二 氏（中央大学研究開発機構教授）
「信濃川における洪水の記録と大洪水の危険性についての一考察」
早川 典生 氏（信濃川大河津資料館友の会理事長）
「今に生きる2000年前の分水、都江堰に学ぶ」
陸 旻皎 氏（長岡技術科学大学教授）
「想定最大規模の降雨による洪水の浸水想定区域の意味するもの」
井上 清敬 氏
（北陸地方整備局信濃川河川事務所長）

平成28年12月5日
平成28年度第4回役員会
場 所／新潟市内
議 事／協会本部定例運営会議等報告 他

平成28年12月5日
総括部会・災害対策部会合同会議
場 所／新潟市内
議 事／災害時演習報告と今後の対応について 他

平成28年12月5日
技術部会委員長会議
場 所／新潟市内
議 事／平成28年度の報告と平成29年度計画について 他

平成28年12月5日
広報部会
場 所／新潟市内
議 事／平成28年度の報告と平成29年度計画について 他

平成28年12月5日
独占禁止法の遵守に関する特別部会
場 所／新潟市内
議 事／平成28年度講習会の開催について 他

平成28年12月5日
本部木谷顧問講演会
場 所／新潟市内
演 題／「建設コンサルタンツを巡る課題と今後の方向」
（一社）建設コンサルタンツ協会
顧問 木谷 信之 氏
参加者／102名

平成28年12月7日
「行政&企業」建設業界説明会
場 所／新潟大学
対 応／伊藤品質向上委員

平成28年12月7日
白山地域における環境保全と災害対策に関する技術講演会
場 所／金沢市内
内 容／「白山ユネスコエコパーク拡張登録と自然の魅力」
白山ユネスコエコパーク協議会
事務局員（コーディネーター）
中村 真介 氏
「手取川上流の土砂崩壊地の現状と対策」
近畿中国森林管理局石川森林管理署
署長 小林 伸一 氏
統括治山技術官 宮本 政澄 氏

平成28年12月12日
平成28年度第3回新技術活用評価会議
場 所／北陸地方整備局
出席者／涌井河川及び砂防委員長

平成28年12月12日
担い手確保育成協議会石川県部会PR活動
場 所／金沢大学
対 応／笹谷支部理事、高畠 智佳子 氏

平成28年12月13日
平成28年度第5回役員会
場 所／新潟市内
内 容／平成29年度事業計画及び予算について

平成28年12月13日

北陸地方整備局との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 渡辺企画部長 他6名

北陸支部 寺本支部長 他21名

平成28年12月14日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会

場 所／金沢河川国道事務所

出席者／新家副支部長

平成28年12月20日

建設技術報告会第2回実行委員会

場 所／新潟国道事務所

出席者／高橋広報委員長

平成28年12月21日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会

場 所／富山河川国道事務所

出席者／吉田副支部長

平成28年12月22日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／出雲崎町出雲崎中学校

対応者／高橋広報委員長、須藤会誌委員長

平成29年1月16日

第15回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術調整管理官 倉重 毅 氏

演題「歴史に学ぶ社会資本整備」

講師（一財）全国建設研修センター

事業推進室特任専門役

土木広報センター会社インフラ解説グループ長

土木史広報小委員会委員長

緒方 英樹 氏

平成29年1月17日

北陸・女性コンサルタント技術者懇談会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 高島地方事業評価管理官 他

北陸支部 11名

平成29年1月17日

北陸・管理技術者懇談会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 高島地方事業評価管理官 他7名

北陸支部 11名（オブザーバー11名）

平成29年1月17日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／堀之内中学校

対応者／高橋広報委員長、猪俣会誌委員

平成29年1月18日

第15回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師 北陸地方整備局 企画部

技術開発調整官 鈴木 和弘 氏

演題「歴史に学ぶ社会資本整備」

講師（一財）全国建設研修センター

事業推進室特任専門役

土木広報センター会社インフラ解説グループ長

土木史広報小委員会委員長

緒方 英樹 氏

平成29年1月19日

Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）

場 所／上越市内

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成29年1月19日

平成28年度「防災とボランティア週間」講演会（後援）

場 所／富山市内

内 容／講演 防災における最近の課題と取り組み

講師 富山河川国道事務所長 福濱 方哉 氏

講演 熊本地震に学ぶ北陸の地震防災

講師 金沢大学理工研究域環境デザイン学系

教授 宮島 昌克 氏

平成29年1月23日

i-Construction実践セミナー（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講演 北陸地方整備局の「ICT活用工事」の動向

北陸地方整備局企画部

講演 新潟県における「ICT活用工事」の発注状

況と今後

新潟県土木部

講演 石川県における「ICT活用工事」の発注状

況と今後

石川県土木部

講演「ICT活用工事」第1号 北海道・株式会社

砂子組の取り組み 北海道千歳市道央圏連

絡道路泉郷改良工事

株式会社砂子組 ICT施工推進室長

真坂 紀至 氏

講演「ICT活用工事」第1号 福島・会津土建株

式会社の取り組み 福島県会津坂下町 宮

古弱小堤対策工事

会津土建株式会社 現場担当者

連載記事『挑戦i-Construction』のご紹介

日刊建設通信新聞社 電子メディア局

田中 一博 氏

平成29年1月25日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／広神中学校

対応者／高橋広報委員長、須藤会誌委員長

平成29年1月25日

河川情報センター講演会（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講演「越後平野における治水の課題とその解決の方向性」
新潟大学 災害・復興科学研究所
準教授 安田 浩保 氏
講演「水防災意識社会再構築に向けた実践的取り組み」
北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所長
石川 俊之 氏

平成29年1月26日

Made in 新潟（土木・建築）説明会 in 上中下越（共催）

場 所／新潟市内

内 容／社会資本整備を支える建設新技術の紹介

平成29年1月26日

第15回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
地方事業評価管理官 高島 和夫 氏
演題「歴史に学ぶ社会資本整備」
講師（一財）全国建設研修センター
事業推進室特任専門役
土木広報センター会社インフラ解説グループ長
土木史広報小委員会委員長
緒方 英樹 氏

平成29年1月27日

第15回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 企画部
地方事業評価管理官 高島 和夫 氏
演題「歴史に学ぶ社会資本整備」
講師（一財）全国建設研修センター
事業推進室特任専門役
土木広報センター会社インフラ解説グループ長
土木史広報小委員会委員長
緒方 英樹 氏

平成29年1月27日

“いい川”づくり研修会 in 新潟（後援）

場 所／新潟市内

内 容／講座1 日本人の伝統的自然観と“いい川”づくり
NPO法人新潟水辺の会
顧問 大熊 孝 氏
講座2 多自然川づくりの理念と技術
（株）吉村伸一流域計画室
吉村 伸一 氏
講座3 岐阜県における“いい川”づくり推進制度
岐阜県：県土整備部河川課
講座4 川と人、その付き合いのあり方を考える
－NPO法人活動－
長岡技術科学大学 名誉教授
早川 典夫 氏
講座5 用排水路網を活用した水田生態系の戦略
的再生ビジョン
新潟大学農学部 教授 関島 恒夫 氏

平成29年1月31日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

場 所／北陸地方整備局

出席者／寺本支部長

平成29年1月31日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第5回幹事会

場 所／北陸技術事務所

出席者／渡邊技術部会長

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-19-13 ハイムオカザキ	025-248-2205 025-248-2206

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナイン8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁214	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0353 金沢市赤土町ト95-1	076-268-1206 076-268-1207
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社)北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財)新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北 陸 支 部 役 員			
	役 職	氏 名	所 属
	顧 問	藤 卷 俊 二	開発技建(株)
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
支部理事	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	副支部長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	運営委員長	高 田 一 博	開発技建(株)
〃	運営委員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	涌 井 正 樹	(株)キタック
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	大 川 重 雄	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	吉 楽 雅 博	大原技術(株)

独 占 禁 止 法 の 遵 守 に 関 する 特 別 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
	部会員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	西 潟 常 夫	(株)キタック

対 外 活 動 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	矢 田 弘	(株)東京建設コンサルタント
	部会員	目 黒 信 雄	(株)建設技術研究所
	部会員 幹事	坂 上 悟	開発技建(株)

新潟地域委員会	委員長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	委 員	山 岸 守	開発技建(株)
〃	委 員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
〃	委 員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	大 塚 明	エヌシーイー(株)
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

総 括 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
	部会員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
	部会員	西 潟 常 夫	(株)キタック
	部会員	清 原 宏 二	開発技建(株)
	部会員	高 野 一 博	大原技術(株)

技 術 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
道路委員会	委員長	神 田 和 久	開発技建(株)
〃	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
〃	委 員	池 淵 稔	東京コンサルタンツ(株)
橋梁委員会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	小 原 隆 一	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	涌 井 正 樹	(株)キタック
〃	委 員	永 矢 貴 之	(株)建設技術研究所
〃	委 員	亀 田 満	(株)国土開発センター
〃	委 員	佐 藤 裕 司	五大開発(株)
〃	委 員	岡 田 和 美	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	木 村 幸 雄	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	平 野 吉 彦	(株)キタック
〃	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 靖	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 本 隆 則	(株)キタック
〃	委 員	平 野 博 範	(株)国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	西 村 治	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	若 林 修	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	野 村 尚 樹	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	山 森 茂 明	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋 浦 慎	開発技建(株)
〃	委 員	内 山 徹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	島 健	(株)キタック
〃	委 員	大 関 一 成	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	兼 政 孝 臣	(株)国土開発センター
〃	委 員	渡 辺 浩 二	大日本コンサルタント(株)

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	サブリーダー	片 岸 将 広	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	七 郎 丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	伊 藤 裕 章	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	新 郷 恭 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	山 田 知 広	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	榑 原 稔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	福 崎 正 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	青 木 隆 幸	相互技術(株)
〃	委 員	佐 藤 洋 子	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐 藤 恵	相互技術(株)

広 報 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	瀧 上 彰	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	芳 野 夏 輔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	新 川 行 男	(株)国土開発センター
〃	委 員	梶 原 亘	パシフィックコンサルタンツ(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	猪 俣 孝 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター

災 害 対 策 部 会			
部 会 等	役 職	氏 名	所 属
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	木 村 幸 雄	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年12月、糸魚川市にて火災が発生し、折からの強風により大火となり、重大な被害をもたらしました。被災された関係各位におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

昨年、春に発生した熊本地震や豪雨等による河川の氾濫、年末には風害による糸魚川大火など自然災害の発生状況も多様化し、我々建設コンサルタントに求められる技術も高度化しています。国土交通省では、新たな技術の活用や生産性向上など、i-Constructionが本格的に始動した年でもあり、ICT技術のさらなる推進を目指すとしています。一方では少子高齢化により労働人口が著しく減少し、我々建設業界でも将来の担い手の確保や若手の育成などが喫緊の課題であり、当協会でも小中学校等に出向き「出前講演会」を開催させていただいております。今後も魅力ある職場づくりを目指し関係機関の皆様方にご指導いただきながら日々研鑽に努めたいと思います。

新たな年が穏やかであるとともに、皆様のご多幸をお祈りいたします。

須藤勝彦

発 行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 須藤勝彦

委 員 / 齋藤浩幸 猪俣孝之 熊倉孝次



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<http://hr-jcca.jp/>